

PMI日本支部 アニュアルレポート 2024

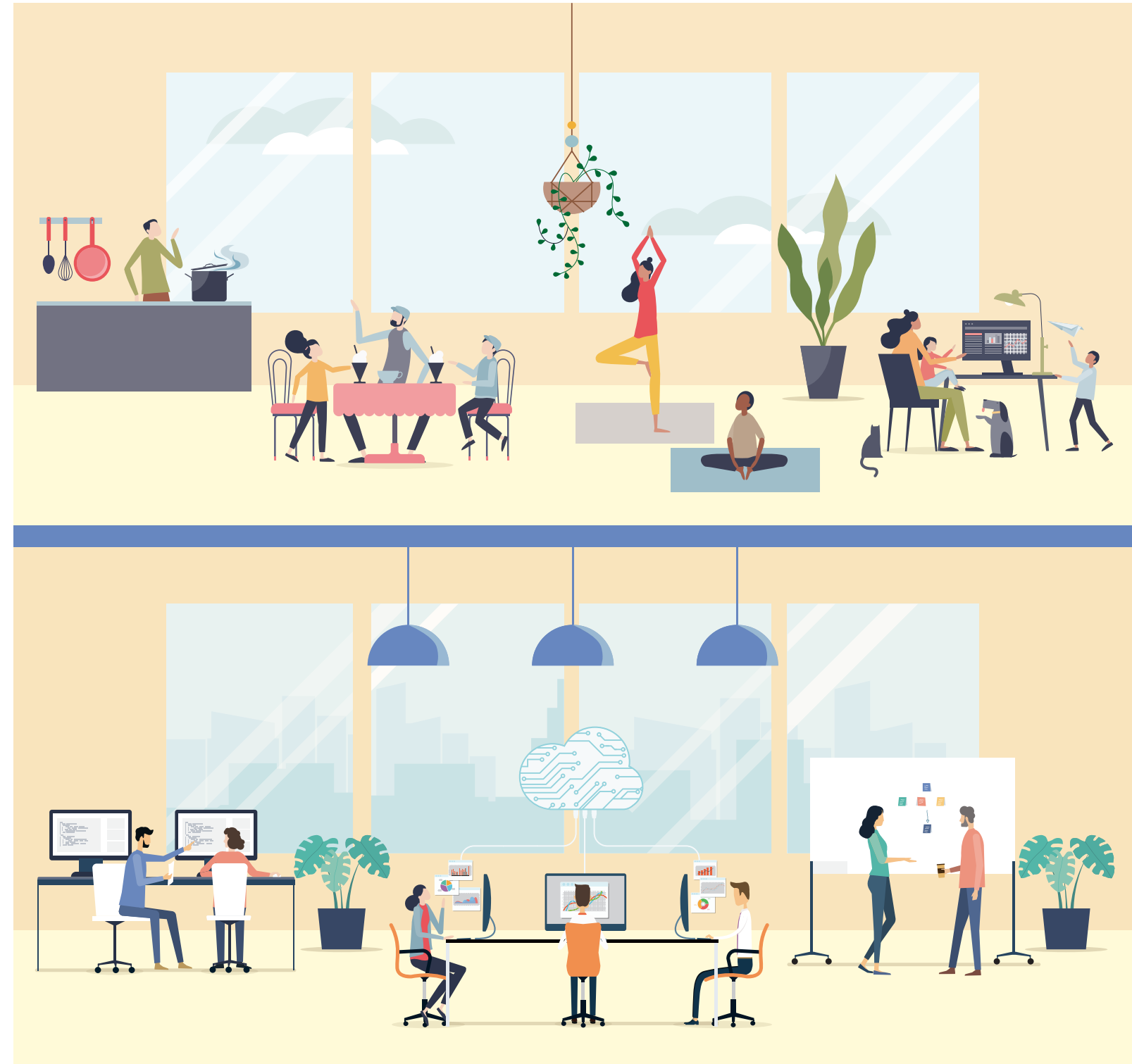


一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
<https://www.pmi-japan.org/>
info@pmi-japan.org

商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「CAPM」、「CHOOSE YOUR WOW!」、「DISCIPLINED AGILE」、「OPM3」、「PfMP」、「PgMP」、「PM NETWORK」、「PMBOK」、「PMI PROJECT MANAGEMENT READY」、「PMI TODAY」、「PMI-ACP」、「PMI-PBA」、「PMI-RMP」、「PMI-SP」、「PMO OF THE YEAR」、「PROJECT MANAGEMENT JOURNAL」、「PROJECTMANAGEMENT.COM」、「PULSE OF THE PROFESSION」は、Project Management Institute, Inc., (以下 PMI, Inc.,)の登録商標です。



CONTENTS

2	PMIとは
2	PMI日本支部とは
3	会長メッセージ
4	Photo Gallery 2024
6	2024年のトピックス
6	日本フォーラム2024
9	Japan Festa 2024
11	PM Award 2024
13	海外イベント報告
16	未来創造プログラム活動
16	PMI Global Summit 2024でのAI@Work 成果発表
17	短時間映像教材
17	学習証明のためのデジタルバッジの発行について
18	PMoA (Project Management of Arts)
19	コミュニティ活動
19	ニューズレター100号
20	中期3か年計画
22	会員向けサービス
22	個人会員制度
24	法人スポンサー・プログラム
25	アカデミック・スポンサー・プログラム
26	行政プログラム
27	支部活動紹介サービス
28	PMI日本支部の組織
30	部会活動
30	部会横断活動
31	首都圏中心の支部会員による部会活動
35	関西ブランチ所属支部会員による部会活動
36	中部ブランチ所属支部会員による部会活動
37	法人スポンサー社員による活動
37	コミュニティによる活動
40	各種セミナー
40	外部講師招請によるもの
41	理事・部会メンバーが講師を務めるもの
46	情報発信
47	販売図書
48	決算報告
49	2024年度 理事・監事・アドバイザー名簿
50	スポンサー一覧

PMIとは

Project Management Institute, Inc. は、1969年に米国ペンシルバニア州で設立されたプロジェクトマネジメントに関する非営利の専門家団体です。プロジェクトマネジメントの実務慣行と科学の効果的かつ適切な適用を推進するという目的を掲げています。2024年12月末時点で世界中に74万人以上の会員を擁し、約100か国に300支部を展開するグローバルな組織です。

PMBOK®ガイド等のPMI標準は、広く世界中の専門家の支持を集めています。また、PMP®など一連の認定資格を提供しており、世界のPMP®資格者数は157万人、全資格を合計すると延べ177万人に及びます。さまざまなイベントやセミナー、eラーニングコースなど、能力開発の機会を提供するとともに、世界の動向を調査分析し積極的な情報発信を行っています。さらに、多方面にわたる活動を通じて、プロジェクトマネジメントへの理解と関心を高め、専門家としての成長を後押しするとともに、企業や組織の事業上の成功に貢献すべく価値提供を続けています。

PMIの活動の多くは、世界各国支部のボランティアによって実施され、新しい仲間と出会いネットワークを広げ、知識と経験を共有する場になっています。

PMI日本支部とは

1998年にPMI, Inc.の支部として「PMI 東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」として組織基盤を整えました。PMI, Inc.と理念を共有しその方針や規則に則った活動を展開する契約を締結して、PMI日本支部を名乗ることを許された日本の法令に基づく団体です。PMI, Inc.から会員管理などさまざまな支援と指導を受け、世界の支部と交流しながらプロジェクトマネジメントの発展と普及に努めています。

2024年末の会員数は6,500人を超え世界第4位の規模に成長しました。標準的な支部の活動を大幅に超える独自施策を多数展開して、PMI, Inc.および多数の支部から注目を集めています。日本国内のPMI会員15,000人およびPMP®等の資格者50,000人に向けた情報発信も行っています。

さらに、会員ボランティアと法人スポンサーに支えられて、多数のイベントを開催しています。研究会や委員会などの部会活動に多くの会員が参加し、自由闊達な議論と幅広い知識と経験の共有を進めており、他支部にはないPMI日本支部独自の運営形態が定着しています。近年は非会員も参加できるオープンなコミュニティを創設し、幅広い方々との交流を通じて新たな活動の輪を拡大しています。

また、常勤職員による事務局体制を整備して安定的な会員サービスを提供しています。

会長メッセージ

2024年は能登半島地震で始まり、その後も事故や災害が記憶に残る年となりました。被害に遭われ今も困難に直面している方々へ心よりお見舞い申し上げます。

温暖化によって深刻化する災害と農業や漁業への悪影響、高齢化と人口減少によって低下する地域の対応能力、備えが必要な南海トラフ地震など、直面するさまざまな問題を改めて思い知らされました。株価は最高値を更新したものの、インフレ、金利上昇、円安など現役世代は未体験の経済状況に直面させられています。一方、大谷選手をはじめ多くの日本人スポーツ選手が世界で活躍し、映画などコンテンツの領域でも日本の力が高く評価され、外国人観光客も過去最高を更新しました。

日本支部の会員数は、2023年末の6,188人から2024年末には6,520人となりました。法人スポンサー数も過去最高を更新しております。会員やスポンサーの皆さまのご理解とご支援に深く御礼申し上げます。特に種々の委員会、研究会、プログラム/プロジェクト、コミュニティなどで積極的に活動いただいた多くのボランティアの皆さまのご貢献に心より感謝申し上げます。

2024年3月にPMIはPMI:Nextという新戦略を打ち出し、プロジェクトマネジメントのみならずプロジェクトの結果にコミットする姿勢を打ち出しました。そして、プロジェクトの成功とは、当初計画のQCD達成ではなく、費やした労力や資源を上回る成果を上げることであると再定義しました。そして、会員の成長を促進する好循環の形成に注力する方針を示しています。

日本支部では、ここ数年注力してきた施策が定着し成果が具現化してきました。プロジェクトマネジメント研究報告第4巻を発行し、PM Awardも第4回となりました。PMI標準の翻訳出版と標準紹介セミナーも多くの方々の支持を得られました。「マンガで学ぶプロジェクトマネジメント」は11巻に到達し、海外展開も期待されています。またSDGs関連の活動の輪も広がり続けています。さらに日本NPOセンターや岡山大学などに研修を提供し、プロジェクトマネジメントの適用領域を拡大しています。

2022年に非会員も参加できる「コミュニティ」を発足させましたが、現在は8コミュニティとなりました。多様な方々との交流を通じて課題や知見を共有するとともに、より多くの皆さまに日本支部をご理解いただく場になっています。コミュニティ活動に先鞭をつけたAI@WorkはPMI Global Summit 2024で登壇の

機会を獲得し先進的な活動を世界に発信してくれました。未来創造コミュニティは若年層の輪を着実に拡大し、若手会員の獲得に大きく貢献しています。新たに発足した行政コミュニティも急拡大を遂げています。また、プロジェクトマネジメントに対する潜在需要を掘り起こす場として、オープンなコミュニティ活動は重要な役割を果たしています。並行して、新入会員や若手会員が気軽に参加できる環境を提供するため「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」を創設しました。

AIの進歩がビジネスチャンスと社会の発展を予期させる一方、さまざまな問題も顕在化しています。冒頭に挙げた多くの問題を乗り越えるために新技術を積極的に活用しつつも、その弊害の克服にも取り組まなければならない、プロジェクトマネジメントの重要性和適用範囲が増大し続けています。会員が時代の要請に応えるべく能力を向上させ社会に貢献する道を日本支部も伴走し続けて参りますので、引き続き皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人PMI日本支部
会長 端山 毅



Photo Gallery 2024



次世代LM2024 ワークショップ発表



次世代LM2024 ワークショップ



フォーラム オブジェ



フォーラム会場 鏡割り



部会リーダー交流会



PM Award 記念クリスタル



PM Award 会長挨拶



LM2024 ブレイクタイム



法人スポンサー連絡会



法人スポンサー連絡会 交流会



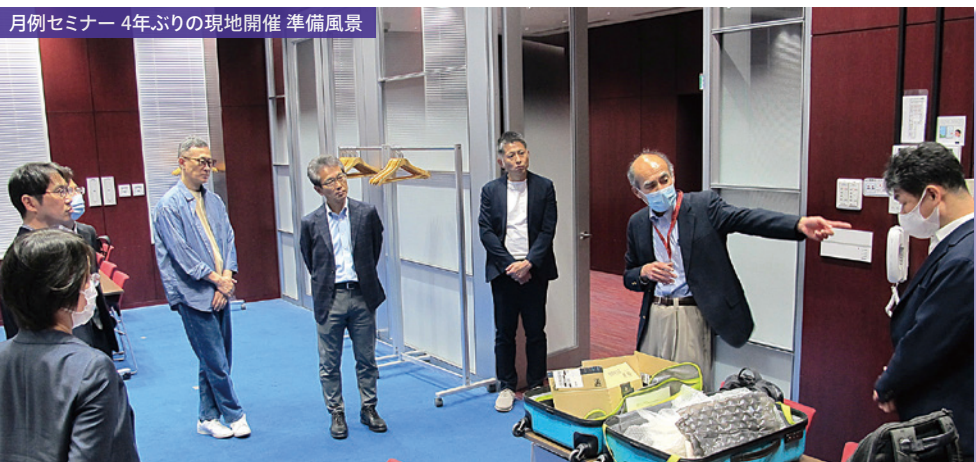
LM2024 ワークショップ



LM2024 表彰



月例セミナー アートWS 風景



月例セミナー 4年ぶりの現地開催 準備風景



PMoA 能登半島震災支援



PMoA 熱海でのアートプロジェクト体験



PMoA 熱海でのアートプロジェクトWS



Festa 会場開催



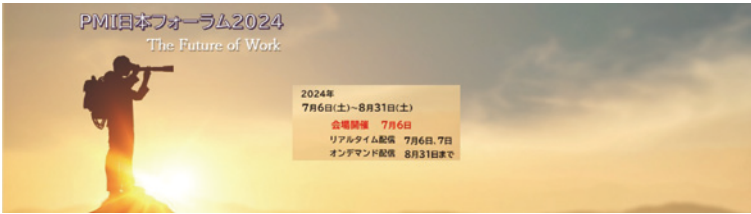
Festa 会場機材

PMI日本フォーラム2024

日程	：2024年7月6日(土)～8月31日(土)	講演数	：全75セッション	
テーマ	：The Future of Work	●基調・招待講演	12	
講演形態	：オンライン配信(リアルタイム、オンデマンド)、一部会場開催	●研究報告講演		
	【基調・招待講演】7月6日(土)、7日(日)	：部会	41	
	●会場での開催	：2024年7月6日(土)	：法人スポンサー SG	3
	●リアルタイム配信	：2024年7月6日(土)、7日(日)	：スポンサー企業様	11
	●オンデマンド配信	：2024年7月8日(月)～8月31日(土)	●アカデミック講演	8
	【部会・スポンサー・アカデミック講演】			
	●オンデマンド配信	：2024年7月6日(土)～8月31日(土)		
会場所在地	TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原2階 〒101-0021 東京都千代田区外神田1-7-5 フロントプレイス秋葉原			

2024年のPMI日本フォーラムのテーマは、「The Future of Work」。

「コロナ後」の2024年は初日は5年ぶりに会場開催とし、PMI本部のPresident & CEOであるPierre Le Manh氏も招請した上でリモート配信とのハイブリッド形式で行いました。各界からお招きした招待講演、実務に根差した幅広い研究報告講演、学術研究の現状と未来等、多種多様な講演により盛況裡に終了することが出来ました。



【基調・招待講演】

PMI本部のPresident & CEOであるPierre Le Manh氏と日本支部 端山会長から「AI Transformation of Project Management」と題し、基調講演がありました。

その後、11人の国内識者から、AI、DX、スマートシステムなどのデジタル技術を活用した企業・プロジェクトの変革の必要性、ROIC 経営、事業継続計画(BCM)など従来の枠を超えたマネジメントのアプローチ、全体最適化経営の構築、地域脱炭素やデジタル田園健康特区など地域社会の課題解決や持続可能な発展を目指した取り組み、マイクロクレデンシャルやリカレント教育による個人の成長やスキルのアップデートの重要性など、多岐にわたる講演をいただきました。

日時	No	講演者	所属組織	講演タイトル
7月6日(土)	1	Pierre Le Manh 氏 端山 毅氏	PMI President & CEO PMI日本支部会長	AI Transformation of Project Management
	2	残間 光太郎 氏	株式会社InnoProviZation 代表取締役社長	イノベーション成功の秘訣
	3	坂井 存 氏	美術家	「突発性美術症候群」のススメ
	4	日戸 興史 氏	株式会社ワコールホールディングス社外取締役／ 日本CFO協会理事(元 オムロン株式会社取締役 執行役員専務CFO兼グローバル戦略本部長)	部分最適から全体最適の経営へ ー中長期的に企業価値を創造／向上させ続ける 実践ROICマネジメントー
	5	篠田 佳奈 氏	株式会社BLUE 代表取締役／千葉工業大学変革 センター 研究員	(仮題)信頼による架け橋:国際プロジェクトの成功
	6	川原 洋 氏	サイバー大学 代表取締役 兼 学長	マイクロクレデンシャルによる戦略的継続学習
7月7日(日)	7	若井 信一郎 氏	株式会社ハマヤ 代表取締役CTO兼CIO	手芸屋50年 ハマヤのDX ～DX人材の採用と教育について～
	8	重藤 さわ子 氏	事業構想大学院大学 教授	地域脱炭素に向けた基礎自治体のプロジェクト マネジメント
	9	新田 信行 氏	開智国際大学 客員教授	社会的事業と金融
	10	夏井 淳一 氏	パース・ビュー株式会社 代表取締役社長	2拠点生活から見た社会課題解決型ビジネス の進め方
	11	真城 源学 氏	DRIジャパン 理事	事業継続(BCM)の必要性を構築し、組織に対し て災害に備え、復旧・継続できるよう支援する
	12	鷺崎 弘宜 氏	早稲田大学グローバルソフトウェアエンジニアリン グ研究所 所長・教授	「スマートエスイー」におけるスマートシステム& サービスおよびDX推進人材の産学連携育成なら びに参照モデルに基づく育成プログラム分析

【アカデミック講演】

アカデミック関連では、8編の講演がありました。各組織のプロジェクトマネジメント教育に関して、理論と実践のバランスや多様な学習者への対応、地域社会との連携が強調されました。特に、PBLを取り入れた授業が学生の主体的な学びと問題解決能力の向上に効果的であることが改めて示されました。また、モンゴルでの日本式高専導入や地域社会の課題解決に貢献する取り組みなど、グローバルな視点からの講演もあり、プロジェクトマネジメント教育は、リーダーシップやコミュニケーション能力、異文化理解の向上に寄与することが示されました。

【研究報告講演】

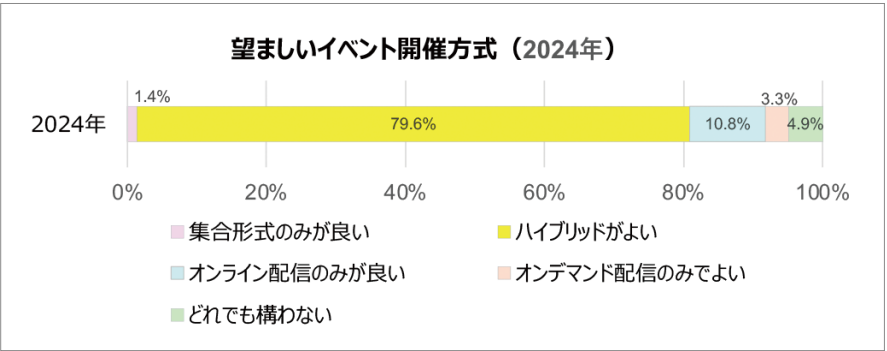
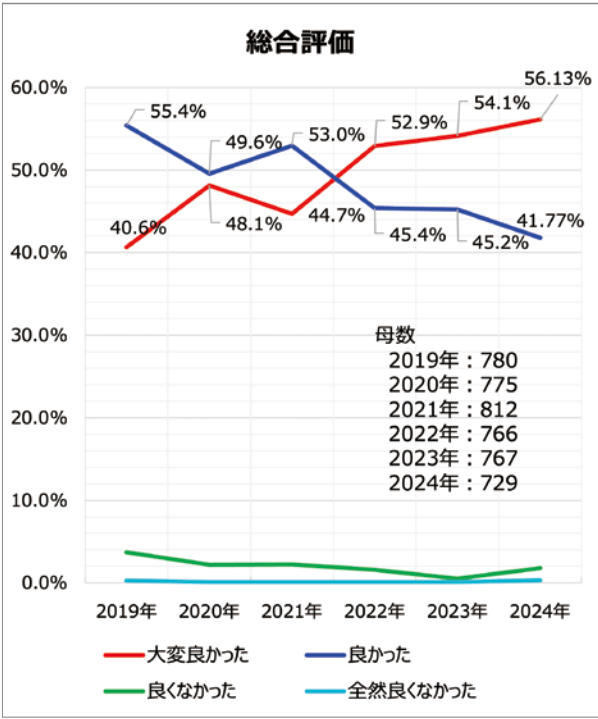
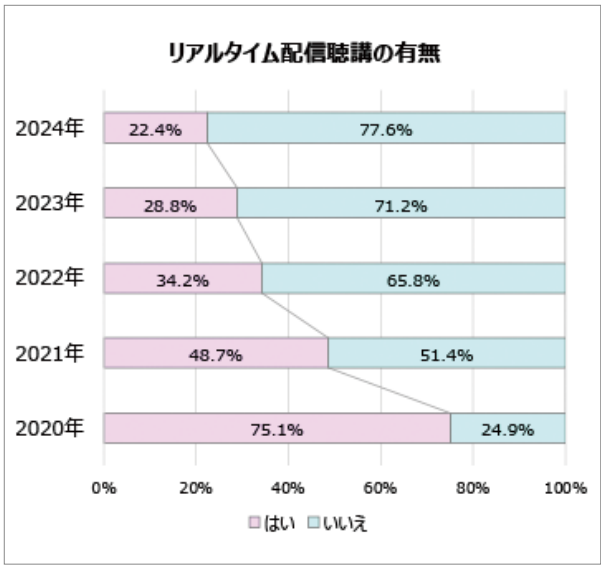
研究報告講演は、2020年からの継続で、各講演者に事前に作成いただいた講演ビデオ(部会・コミュニティから41セッション、法人スポンサー・スタディグループから3セッション)を全てオンデマンドで配信しました。

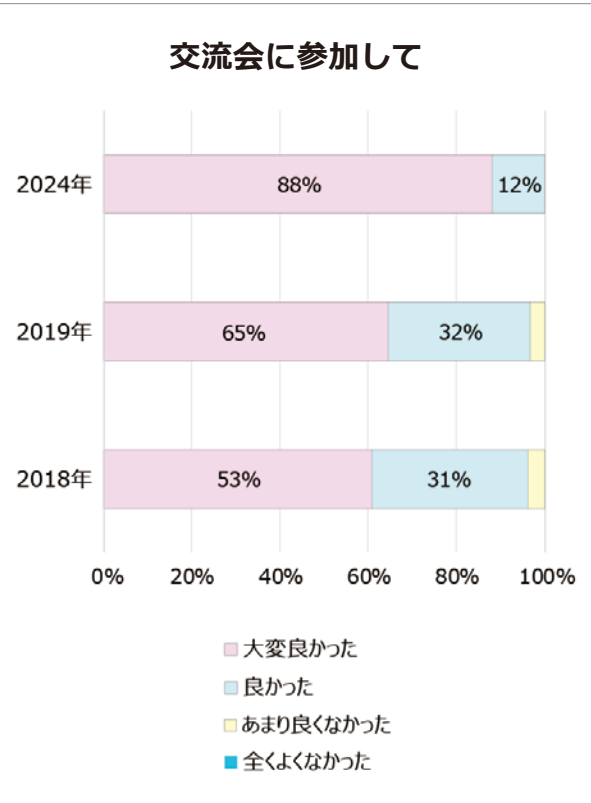
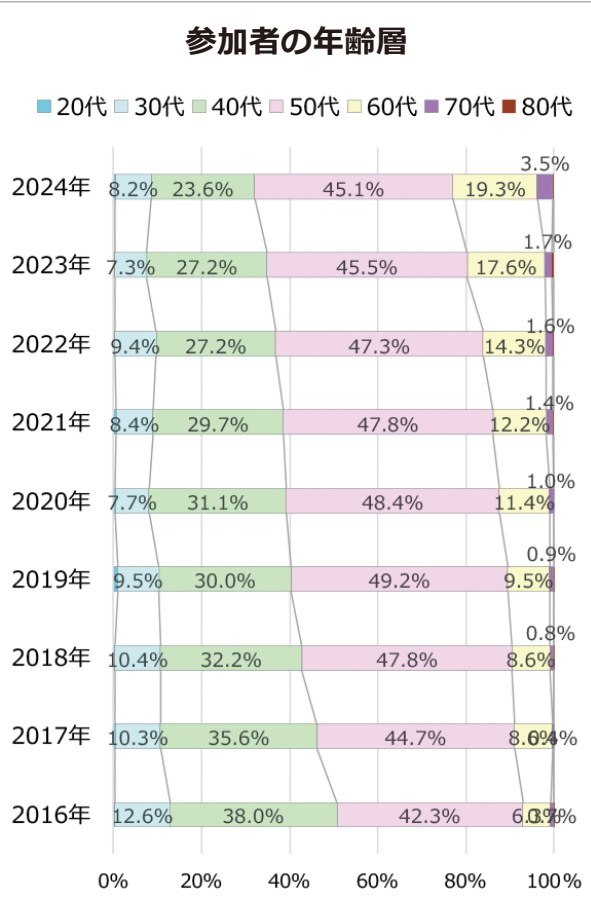
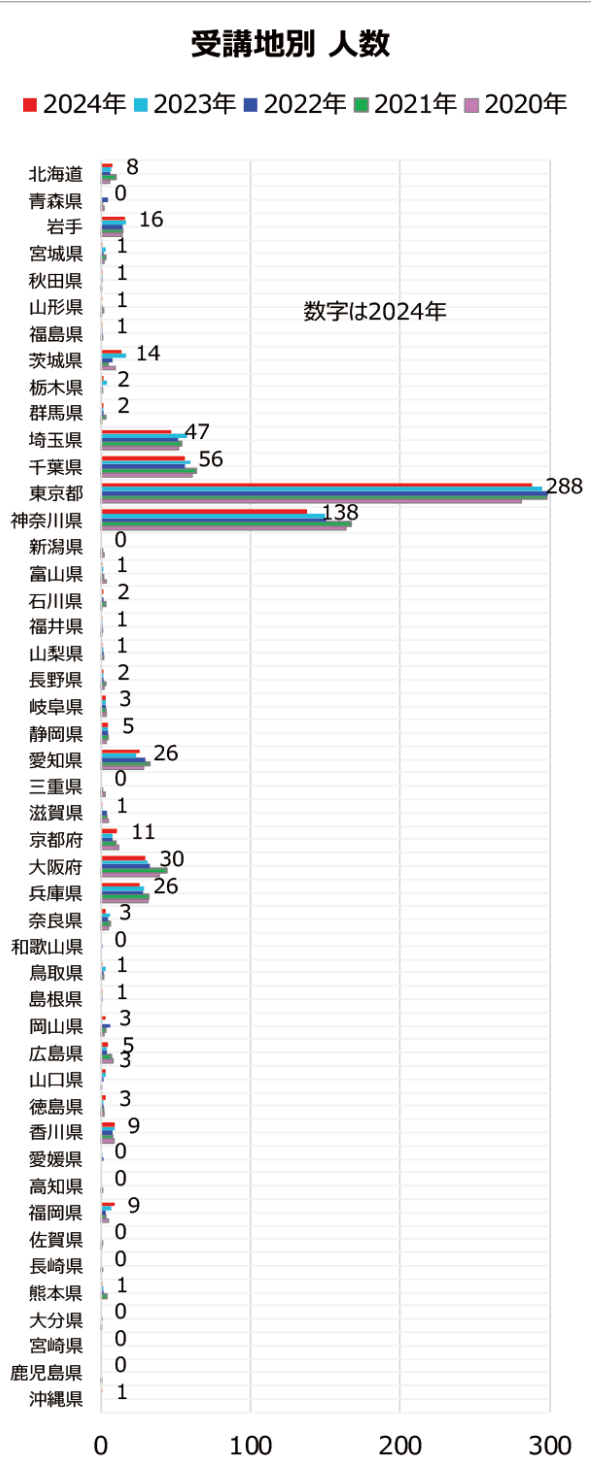
生成AIを含むAI技術がプロジェクトマネジメントに与える影響やその活用方法のほか、SDGsをテーマにした講演が多く見られ、持続可能な社会に向けたプロジェクトマネジメントの重要性が強調されました。また、DX

時代におけるプロジェクトマネジャーの自己変革やリスクリング、ビジネスモデルキャンバスやAI活用型ツールなど、効率的なPM実践を支える新しいツールや手法も紹介されました。

【スポンサー講演】

フォーラム2024への協賛企業様からは11編の講演がありました。研究報告と同様にビデオによるオンデマンド配信で、多くの講演で、従業員の自律的な行動やマネジメントを強調しAIの活用をプロジェクト管理や問題解決に役立てる方法が取り上げられました。また、変革に強い組織体制の構築が急務であり、トップダウンではなく、現場レベルのアジリティを強化する重要性のほか、プロジェクトマネジメントにおけるコンピテンシーやコンセプチュアルスキルの向上、また日本の実務慣行とPMBOK®ガイドとの違いに焦点を当て、国際標準とローカル慣行の適合性を考慮する必要性が指摘されました。





PMI Japan Festa 2024



日程 : 2024年11月9日(土)~11月30日(土)
テーマ : 変化の波をのりこなす! ~不確実性の中での戦略的プロジェクトマネジメント~
講演形態: リモート配信 全10講演 ① 会場+リアルタイム配信 11月 9日(土) 5講演
② リアルタイム配信 11月10日(日) 5講演
③ オンデマンド配信 11月11日(月)~ 30日(土)

Japan Festa は2024年で16回目を迎えました。2020年に新型コロナウイルス感染拡大により会場開催を断念し、それ以降4年間は完全リモート開催としてきました。2024年は2日間のうち、1日目を会場とオンラインのハイブリッド開催とし、オンラインの良さと現地ならではの醍醐味をご提供できるよう、セミナープログラムも Festa の進化形を求めて取り組みました。
また、2023年と同様に「PM Award」の最優秀プロジェクト賞受賞者をお招きするなど、各界のリーダーに登壇い

ただき、極めて高い評価を得て大成功裡に終わることが出来ました。

【運営面での趣向】
企画・運営にあたるセミナープログラムの準備活動ぶりや、講師との事前リハーサルの様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。

講師一覧

日時	No	講師	所属	講演テーマ
11月9日(土)	1	柴田 崇徳 様	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門 上級主任研究員	アザラシ型ロボット「パロ」のエビデンスに基づく海外での医療機器化と医療福祉制度への組み込み
	2	菊地 英一 様	株式会社 長大 執行役員 事業戦略推進統轄部 統轄部長	空飛ぶクルマの実現に向けて ~建設コンサルタントとして異業種からの挑戦~
	3	各務 茂雄 様	株式会社JTB DX担当 執行役員	「デジタルとアナログの交差点」 ~JTCの事業会社でDXを行う為の道しるべ~
	4	竹村 真紀子 様	エドゥケーター パークプロデューサー	前歯は折れ、パークは事業譲渡、泣くか笑うか!?
	5	結城 智史 様	合同会社 Zest CEO	意外と簡単ではない「やるべき事をやる」ということ
11月10日(日)	6	北村 智子 様	TDK株式会社 生産本部 モノづくり改革統括部 工程能力改善課	役割が後押しした挑戦 ~初めての経験を通じた成長の記録~
	7	藤原 紀子 様	東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科 がん看護専門看護師/リサーチナース	未来の医療を創るために現在の患者さんの看護をする ~リサーチナースという道~
	8-1	PM Award 2024 Small & Medium部門 大門 恭平 様	医療法人生和会グループ SDX研究所 所長	リハビリテーション分野に特化した生成AIソリューションの開発
	8-2	PM Award 2024 Large部門 原島 努 様	企業年金ビジネスサービス株式会社 情報システム部長	SOP (Seiho Open-Innovation Project) ~企業年金の制度管理事務における生保共通プラットフォームの構築~
	9	荒金 英樹 様	愛生会山科病院 消化器外科部長/京介食推進協議会 会長	手術室から踏み出す京のまちづくり
	10	前野 隆司 様	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授/武蔵野大学 ウェルビーイング学部 学部長・教授	ウェルビーイング経営 ~みんなが幸せなプロジェクトの進め方~



開幕時の放映動画



会場でのスタッフ一同



グラフィックレコーディングの例

【日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション】

2024年もPM Award とのコラボレーションを行い、PM Awardでの2部門(Small & Medium部門、Large部門)におけるそれぞれの最優秀プロジェクト受賞者から、プロジェクトの内容をご紹介いただきました。

【交流会】

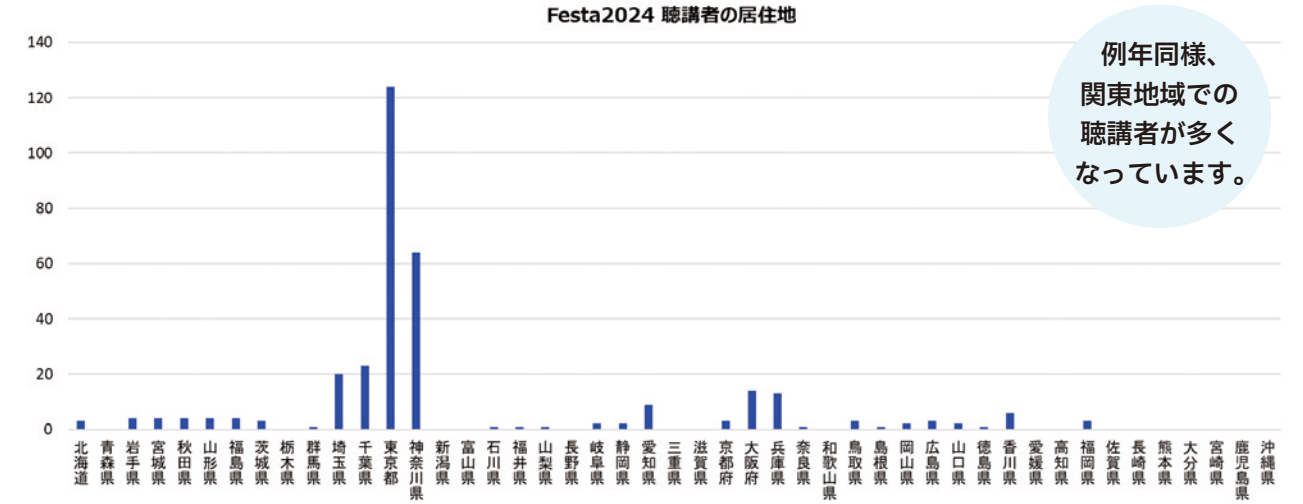
5年ぶりの会場開催に合わせて初日の5講演終了後に交流会を開催しました。講師の方々も参加され楽しく歓談いただきました。



【聴講者のご意見、聴講地域などの特徴】

アンケート結果から満足度を見ると「大変良かった」と「良かった」の合計が99%を超えており、大好評であったことがわかります。(いただいたコメントの一例)

- 毎回大変興味深いテーマ。先進的だけでなく、目から鱗のテーマなど含めていただいて非常に面白い。
- 色々なテーマを元にプロジェクトマネジメントを理解し、また、懇親会でもさまざまな方のご意見をうかがえた。
- 講演者がバラエティに富んでおり、単にITや製造、建築などの現場プロジェクトの話ではなく、どれも人との関わりに特化したテーマが多かったため全く知らない分野の話でも興味を持って聴くことが出来た。
- 久しぶりに現地参加してリモート受講より良かった。



例年同様、関東地域での聴講者が多くなっています。

【聴講者の参加形態】

会場参加、リアルタイム聴講、オンデマンド聴講の3形態別(配信プラットフォームによる聴講実績データ)で見ると以下ようになります。

初日の聴講者 : 会場参加30人、リアルタイム聴講52人 (5コマの平均値)

二日目の聴講者 : リアルタイム聴講67人 (5コマの平均値)

オンデマンド聴講者 : 219人(10コマの平均値)

また、アンケート結果から、「リアルタイム配信」と「オンデマンド配信」の実績を見ると、「リアルタイム配信」を聴講された方は全体の29%となっています。

PM Award 2024

PM Award は、未来創造に繋がる、日本に拠点を持つ企業・団体による優れたプロジェクトを表彰する制度として2021年に創設したものです。世界中で社会を変えていく「プロジェクト」が多数行われ、海外ではPMIを中心にさまざまな優れたプロジェクトやプロジェクトマネジメントを実践している企業・団体を表彰する制度が創設されてきています。日本支部においても、PMIの協力の下、PM Awardを運営しています。

PM Award の 詳細 は、Web サイト (<https://www.pmi-jaward.net/>) をご覧ください。

第4回となる「PM Award 2024」は、右表のスケジュールで実施しました。

今回は、「Small & Medium部門」、「Large部門」の2部門で募集を行い、ご応募いただいたプロジェクトから8件のプロジェクトをファイナリストとして選出しました。また、ファイ

【総括】

初日は東京秋葉原駅至近のアキバプラザにて開催しましたが、会場開催は新型コロナウイルスが蔓延する以前の2019年11月以来のことです。アキバプラザに足を運んでいただきました参加者、webで聴講いただいた皆さまに感謝申し上げます。

私たちを取り巻く環境は、非常に大きく、そして速いスピードで変化し続けています。Festa 2024、そして当イベントを企画・実施しているセミナー・プログラムの活動が皆さまが変化の波を乗りこなすだけでなく、次の変化を起こしていく一助になっていれば幸いです。

時期	イベント等
2024/4	開催案内
2024/4~2024/6	応募受付
2024/8	ファイナリスト発表
2024/9	ファイナリスト紹介セミナー、セミナー視聴者による投票
2024/10	表彰式及び受賞記念パーティー

ナリスト紹介セミナーには1,720名が視聴登録、投票には2部門とも1,100名を超える方々がご参加くださり、最終的に、最優秀プロジェクト賞2件、優秀プロジェクト賞8件、特別賞6件が選出されました。

なお、表彰式および、受賞記念パーティーには多数の各受賞企業・団体の方々、関係者にご来臨いただき、受賞を祝っていただくことができました。

「PM Award 2024」における受賞プロジェクト、企業・団体 Small & Medium 部門

受賞名	受賞プロジェクト名	主体企業・団体
最優秀プロジェクト賞 特別賞(PMI Asia Pacific賞)	リハビリテーション分野に特化した生成AIソリューションの開発	医療法人生和会グループ MR&S 有限会社 SDX 研究所、株式会社 Pleap、医療法人せいわ会 彩都リハビリテーション病院、医療法人せいふう会 川西リハビリテーション病院
優秀プロジェクト賞	インドの子供たちへ音楽を届ける「Japan-India Harmony Festival」プロジェクト	Japan-India Harmony Festival
優秀プロジェクト賞 特別賞(パーソル総研 well-being賞)	無人販売レジ BAITEN STAND による地方小売事業モデルの構築	株式会社 AIBOD
優秀プロジェクト賞 特別賞(岡山大学 SDGsイノベーション賞)	PROJECT ATAMI	PROJECT ATAMI 実行委員会

「PM Award 2024」における受賞プロジェクト、企業・団体
Large 部門

受賞名	受賞プロジェクト名	主体企業・団体
最優秀プロジェクト賞 特別賞(情報サービス産業協会 DX 賞)	SOP (Seiho Open-Innovation Project) ～ 企業年金の制度管理事務における生保 共通プラットフォームの構築 ～	企業年金ビジネスサービス株式会社
優秀プロジェクト賞 特別賞(ITI イノベーション賞)	勇者はUXデザインから生まれる?人生の大 切なことをゲームから学ぶ展	公益財団法人日本デザイン振興会、株式会社たきコーポ レーション
優秀プロジェクト賞	グローバル品質マネジメントシステムの改革 プロジェクト	株式会社 NTT データグループ
優秀プロジェクト賞 特別賞(MCPC 最優秀賞)	TOYOTA x KINTO Unlimited Connected Drive Trainer (CDT) アプリ開発	トヨタ自動車株式会社、KINTO テクノロジーズ株式会社

今回も運営ボランティアをはじめ、多くの方々のご支援
とご協力により無事終えることができましたこと、関係者の
皆さまにあらためて感謝申し上げます。今後も運営を改善し

ながら、より多くの方々にご参加いただき、より広くプロジェ
クトマネジメントの社会的な認知向上に貢献できる取り組み
にして参ります。



COLUMN

組織拡大委員会 PM Award運営担当 大竹 律子



組織拡大委員会で、PM Awardの運営にたずさわっています。2024年は主にネットSNSの広報・プロモーションを
担当しました。PM Awardは日本中にある、人知れず頑張っておられるプロジェクトに光をあてると思っています。
また、PM Award自体もこれからまだまだ世の中に認知されていってほしいし、そうなるべく活動しています。表彰は
一瞬というか、その年だけのものなのですが、プロジェクト担当者は完遂までに何年も粘り強く対応してこられている
ので、さまざまなプロジェクトを拝見して毎年毎年違う感動を得ています。

PM Awardの認知度をあげて幅広くエントリーしていただくために、みなさんも一緒に活動してみませんか？

海外イベント報告〔総括〕

PMI日本支部 理事 水井 悦子

2024年のPMI本部主催イベントは、対面での大規模
な開催が主流となり、コロナ禍以前の賑わいが戻ってき
ました。PMIはテクノロジーやビジネス環境が急速に進
化する中、未来を切り開き前進するための新たな戦略で
あるPMI:NEXTを発表しています。多くのイベントで、AI
やAgility、PMOがフォーカスされ、プロジェクトマネジメ
ント人材が直面している課題や新たなスキル獲得について、
活発な議論がなされました。

日本支部からは、コロナ禍前後に就任した理事を中心
に海外イベントに参加し、新たな知恵や経験を日本に持
ち帰り、フィードバックを行っています。今後も海外イベ
ントで発信される最新動向や、得られた知見を取り入れ、更
なる支部活動の活性化に努めてまいります。

PMI Region 9 Meeting

PMI日本支部 理事 金子 啓一郎

2024年4月、韓国ソウルでPMI Region 9 Meetingが
AP主催で開催され、端山会長以下4名が参加しました。
Region9は韓国、台湾、香港、モンゴル、日本の各支部に
中国を加えた6か国で構成されており、APを加えた約30
名が参加しました。

ミーティングではPMIの今後の方向性PMI:Next
について、Purpose Statement ”We maximize project
success to elevate our world”などの説明があり、香
港支部企画の学生コンペ(香港、モンゴル、台湾の大学
が参加)の紹介もありました。

日本からは、オープンコミュニティ活動とマンガ活用
について紹介しました。東アジア各支部のリーダーとの交
流を通じてさまざまな考えに触れることもでき、非常に
有意義になりました。同時に、幅広くさまざまな活動をして
いる日本支部の取り組みを海外に向けて発信していくこ
との大切さも実感しました。



ASIA PACIFIC / SOUTH ASIA LIM 2024

PMI日本支部 理事 小川原 陽子

LIM(Leadership Institute Meetings)は、各支部の
理事などボランティアリーダーが集い、PMIの新たな戦
略の展開や支部運営に関するノウハウの共有、リーダー
間のネットワーク構築を行うイベントです。

2024年のAP/SA(Asia Pacific/South Asia)地域の
LIMはマレーシアで開催され、日本支部からは7名の理
事が参加しました。

開催期間:2024年7月25日(木)～7月28日(日)

開催地:マレーシア

参加人数:177名

参加支部:33支部

PMI Nextの取組としてAsia Pacific地域における優
先事項である ①マーケティングを通じて市場を拡大す
る ②PMIブランドの認知度を向上させる ③会員の価値
を高める に関連する多くのセッションが用意され、活発
なディスカッションが行われました。

日本支部からは、その成長を支える施策の1つである、
スタディグループを紹介しました。特に、非会員と会員が
コラボレーションする「オープンコミュニティ」の事例紹
介が好評を得ました。

LIMへの参加で得られた知見や気づき、繋がりを、
今後のさらなる日本支部活動の活性化に活かしてまい
ります。



Global Summit 2024

PMI日本支部 理事 坂上 慶子

PMI Global Summit 2024が9月18日～21日 Los Angeles にて開催されました。2024年の参加人数は4,000人の大台に乗り、120以上の国/地域からプロジェクトマネジメント人材が参集しました。ターゲット・オーディエンスを次世代としてアピールしており、44歳以下が多く参加していたことも特筆すべき点です。イベント企画も次世代が中心となり、オープニング・ショーケースにブレیکنを採用したり、アワード授賞式の司会に若手女優が登壇したりするなど、新しい感性を取り入れた刷新したイメージが前面に打ち出されていました。

オープニングキーノートは、PMI:Nextの定義にも関わったAfdhel Aziz氏による「The Power of Purpose」。Purposeのもつ価値と期待についての話でした。企業のパーパス経営だけでなく、Personal Purpose(生きがい)にも言及しており、現代におけるその重要性を再認識するものでした。

次に、35歳という若さでフィーチャードセッションを担当したMarita Cheng女史は、大学生時代に工学部の女子学生の少なさに疑問を呈し、RoboGals(≠リケジョ)と名付けた、普及・推進・教育活動を皮切りに、AI工学を駆使した障害者支援ロボットを各国に展開しています。「ただ実現したいことがあっただけで、それを世界に持ち込むために必要なことはなんでもやった」彼女の小さな体

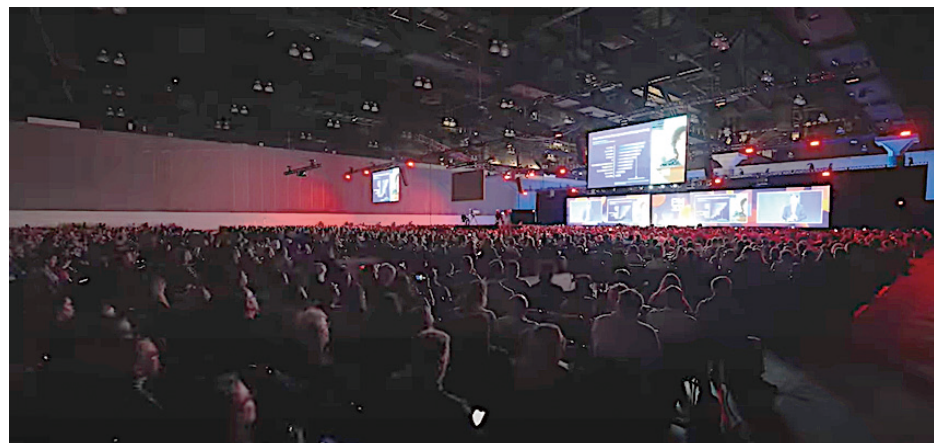
には、業界を越え、国を越えて、人生を豊かにするエキサイティングでエネルギーが詰まっていた。

最後のクロージングキーノートは、Not Impossible Labsを立ち上げたMich Ebeling氏による「The Fallacy of Impossible(不可能への誤った認識)」。3Dプリンタで安価に義手を作ったり、アメリカの貧困層に食べ物を届けるデリバリーサービスを実現したり、不可能を可能にしたさまざまなソリューションの紹介がありました。Mich氏のくったくない笑顔と共に、どんなものでも最初は不可能だった、世界は変わる・変えられる、という信念が伝わりました。

ブレイクアウトセッションは全約140本中、トピックの多い順にLeadership 48件、AI 38、次いでPMO、Agile、Communicationと続きました。AI人気は時流に乗っていますが、Leadershipなどヒューマン系がむしろ増えているのは注目すべき点。要するに、AIに任せられない、人間でなくてはできない仕事、より高次の人徳を求めているのでしょう。

日本支部としては、日本人講演者(神庭弘年氏+武上弥尋氏)のセッション支援や、日本から参加した10社34名のネットワーキング等参加者支援を行いました。日本支部がChapter of the YearのFinalistに選出されたことは、会員の皆さまのご尽力の賜物です。

Global Summitは“人いされ”による熱気だけでなく、何かを学び取ろう、繋がろうという熱量にあふれていました。皆さまもぜひ一度、体験してみてください。



COLUMN

PMI日本支部 アドバイザー 神庭 弘年

2024年「講演者支援プログラム」を利用してロサンゼルスで開催されたGlobal Summitに参加させていただきました。AI@Workの武上さんの発表をアシストする共同発表者としてです。前回の参加はコロナ前の2019年でした。この5年間の変化はすさまじく、AI関連の発表が半数以上、4,000人も参加者が果敢に議論している様子は圧倒的でした。PMI自体も外部企業の買収などAIにアグレッシブに取り組んでおり時代の流れを肌で感じる事が出来ました。「変わる」ことに躊躇を見せないPMI、PMIメンバーの一員であることを誇らしく思いました。多くの人がPMIの行事に参加されることをお勧めします。



台湾支部25周年コンGRES

組織拡大委員会 未来創造プログラム

リーダー 谷口 和行

2024年10月26日～27日、台中市と台北市で開催されたPMI台湾支部25周年コンGRESに参加しました。本イベントは「AI時代における技術と持続可能なイノベーション」をテーマに開催され、基調講演ではAIの活用に必要なスキルや、AI時代におけるプロジェクトマネジャーの役割の進化について洞察が共有されました。

授賞式、交流会も行われ、台湾をはじめカナダ、香港、日本、韓国、モンゴル、ドイツ、マレーシア、アメリカなど9か国から500人以上が参加する、非常に刺激的なイベントでした。

交流会では、各支部の理事・リーダー層と意見交換を行い、若手メンバーが主体的に学びを深められる環境作りの重要性を再確認しました。日本支部でも、学生・20代・30代を対象とした施策が始まっています。異なる文化や価値観を越えた学びの場を構築し、国際的なPMコミュニティにおける日本支部の存在感をさらに高めていきたいと考えています。



台湾支部会長を囲んで行われた交流会

PMI モンゴル支部10周年記念コンファレンス

PMI日本支部 理事 鬼束 孝則

PMIモンゴル支部10周年記念コンファレンスが2024年10月25日に開催され、日本支部を代表して参加させていただきました。

会場の活気は日本におけるプロジェクトマネジメント創成期を思い起こさせる雰囲気会で会場に参加されている800名(平均年齢は20代かつ7割が女性)の皆がこのムーブメントに乗ろうとしており、パッションが伝わってくる内容でした。

会場内はボランティアスタッフの数が極めて多いほか、会場を飾る看板、ボードメンバーのコメント映像集、交流会の10周年記念ケーキなど、エンタメ性が非常に高く作

られていると感じました。また、発表されたプロジェクトはどれも大規模でITプロジェクトは非常にレベルが高く、知識・実践値も日本と差はないと感じましたが、モンゴル支部にとって日本支部は目指すべき存在であり、日本支部はアジアの確固たるリーダーであることを知る機会にもなりました。

今回は大いに刺激を受けモンゴルに対する既成概念を大きく覆されることになりました。このような極めて有意義な経験をさせていただくこと大変感謝しています。こうした経験を多くの会員の皆さまへ共有すると共に、皆さまにも経験いただく機会を作っていければと考えています。



香港支部プロジェクトマネジメント・コンGRES

PMI日本支部 理事 奥田 智洋

2024年11月16日に香港で開催されたPMI HK Asia Pacific Congress2024に参加してきました。香港の行政、企業、大学の取り組み事例に加えて、リージョン9の学生ケースコンペティションのアワード受賞者による発表など、さまざまな立場の方々からの貴重な講演を拝聴しました。

私は海外でのイベントには初参加でしたが、30分/セッションという短い講演時間ではありながら講演者からの強いメッセージがしっかりと伝わってきたこと、そして会場における香港支部の方々との一体感を感じさせる「おもてなし」の振る舞いなど、日本のイベントだけでは得られない多くの気づきを持ち帰ることができました。これらの気づきは今後の日本支部での活動に活かしていきます。



未来創造プログラム活動

PMI日本支部 理事 杉原 秀保

未来創造プログラムでは過去4年間、セミナーやワークショップを実施してきましたが、2023年同様、若い方々向けの未来創造イベント「次の時代を生きるスキルとは 明日から使えるマネジメント入門」を8月25日に開催しました。午前のセミナーは、「志の醸成とキャリアの築き方」と題したグロービス経営大学院副学長の田久保善彦氏と、「グローバルなプロジェクトマネジメント動向をキャッチアップ!」と題してPMIアジアパシフィック ヨランダ・キム氏からのご講演でした。午後の「プロジェクトマネジメント・ワークショップ」では、日本支部メンバーのリードで、ディスカッションや発表を通じてPMの実践スキルを学んでいただきました。交流会では、豪華なお弁当を食べながら一日の学びや出会いを振り返り、皆さん笑顔で良い時間を過ごしていただきました。

また、未来創造セミナー(6月6日「ひとり広報、予算0円での戦略PR」北川史歩氏、12月18日「あなたのキャリアを切り開くプロジェクトマネジメント力とは」)やワークショップ(プロジェクトマネジメント入門)も別途開催しており、今後も若い方のニーズにそったイベントを企画・開催して参ります。



PMI Global Summit 2024でのAI@Work 成果発表

AI@Work 代表 武上 弥尋

PMI Global Summit 2024での講演に応募、スピーカーとして選出され、2024年9月にロサンゼルスで、AI@Workによる5年間の活動成果を発表しました。PM×AIといった話はほぼない時代の2019年6月に立案、外部のAI専門家やPMI本部との連携を深めながら、3つの視点(PM4AI, AI4PM, AIK4PM)による探求を続けてきました。PM×AIに関する3視点での知見とともに、Community of Practice (CoP)の運営における成果や気づきも訴求し、全ての評点でイベント平均を上回る評価も

獲得できました。

AIは爆発的に進化・変化を遂げる知識領域であり、知見や技能を持続的な相互交流により深めるCoPは効果的で、組織にもメンバーにも短期・長期で価値をもたらします。Web会議+Slack+Boxを前提とした、いつでもどこでも誰もがフルメンバーと感じられるCoP運営は、2020年1月のキックオフ以来、多くの研究テーマや積極的なディスカッションを育んできました。登録メンバーは271名(2025年1月31現在)、常時40~80名のアクティブメンバーが、知見共有や探求を楽しんでいます。PMI×AIの施策により、AI ReadyなPMとなるために必要な知財は今や潤沢で、一歩踏み出しReskill/Upskillに挑めるかが問われています。AIを価値創出に活用するプロジェクト専門家であり続けるためにも、AI@Work CoPの活動をさらに発展させていきます。

	Presentation Average	Event Average
Did the title, description and learning objective of this activity accurately reflect the content delivered?	4.43	4.32
Will you be able to apply the learnings or key takeaways from this activity to your job or professional development?	4.29	4.16
Was the presenter(s) engaging?	4.57	4.31

[Rating scale is 1-5, with 5 being the highest rating]

AI@Work 講演終了後の一幕。参加者からの温かいお声がけと交流

短時間映像教材

PMI日本支部 理事 稲葉 涼太

日本支部では2023年の創立25周年を機に、普段お仕事でプロジェクトに関わる方以外にも広くプロジェクトマネジメントの良さを知って活用いただくため、短時間映像教材を配信するチャンネルを開設しました。

『プロジェクト』は特別な活動ではなく特定の目的と期間がある活動を指します。つまり、転職活動も資格試験もイベント開催も全て『プロジェクト』であり、世の中の多くの活動がプロジェクトと言えます。

プロジェクトマネジメントが普及することで、世の中の多くのお仕事や、日常生活、キャリアの実現、ボランティア活動などがより良くなり、社会は持続的に発展することができます。

未来を担い世の中を変えていく方たちを私たちは『Change Makers』と呼んでいますが、多くのChange Makersたちにプロジェクトマネジメントが広まることで、社会が持続的に発展すると考えます。

現在、日本支部では映像教材として36本の動画を公開しています。

2024年も女性コミュニティ、シニアコミュニティ、また標準推進委員会の「マンガで学ぶプロジェクトマネジメントシリーズ」を公開しています。

定期的に各部会からの動画を募集していますので、ぜひコンテンツの提供をお願いします。

▼ PMI日本支部映像教材チャンネル
https://www.youtube.com/@Webinar_PMJ/videos



学習証明のためのデジタルバッジの発行について

PMI日本支部 理事 藤井 新吾
PMI日本支部 事務局長 寺田 尚弘

【経緯】
日本支部では主催した行事へ参加・貢献いただいた方に対して、デジタルバッジを発行してきましたが、2024年度から、日本支部が主催・共催した教育プログラムを受講し、学習成果の評価を受け合格した受講者に学習証明を与える際にも、デジタルバッジを発行することとしました。
また、これを機に「デジタルバッジ発行ガイドライン」を新たに制定し、参加賞、貢献、学習証明の各デジタルバッジ発行について、このガイドラインに従って運用することとしました。
2024年度はその第1号として、「岡山大学向けPM基礎研修」の修了者に学習証明を発行しました。

【岡山大学向けPM基礎研修の学習証明発行について】
日本支部は、2024年度に岡山大学総合技術部職員を対象に「プロジェクトマネジメント基礎研修」を実施しました。本研修は、PMの基礎を学び、専門知識を活用してプロジェクトを効果的に管理できる能力を養うことを目的としています。研修内容は、日本支部がNPO向けに提供してきたもの

を基に岡山大学向けにカスタマイズし、講義と演習を通じて段取り力を高める構成となっています。
研修は2024年9月から10月の間に計3回開催し、修了者24名には日本支部よりデジタルバッジ形式の学習証明を発行しました。発行基準は、「全回の参加」と「評価基準を満たす成果物の提出」で、内容は日本支部のガイドラインおよびマイクロ credenシャル共同WGの基準に準拠しています。
本取り組みは文部科学省の研究開発イノベーション推進の一環としても注目され、学びの質向上と社会貢献を目指す先進的な事例となっています。



PMoA (Project Management of Arts)

PMI日本支部 理事 齊藤 学

PMoA (Project Management of Arts) は2023年の日本支部創立25周年を機に開始したプロジェクトマネジメント視点でのアート・プロジェクトの調査研究を通じて新たな価値創造を目指す活動です。2024年度は約15名のメンバーにて5つプロジェクトを展開し、延べ195名の会員・関係者・協力者が参加しました。

活動2年目に実施したプロジェクト活動は以下の通りです。

1. 日本フォーラム×現代アート

招待講演者である現代芸術家・坂井存氏の作品展示を兼ねた来場記念撮影ブースの設置(7/6)、またプレイベントとしての同氏によるアート・セミナーを東京赤坂にて開催(7/5)

2. アーティスト交流会「パレットテーブル」

「熱海アートグラント2024」出展予定アーティストとのランチ交流会を開催し、アーティストの創作思考を学ぶとともに、アート・プロジェクトに関する意見交換を実施(6月、8月)

3. 能登半島震災支援「ノト・コレカラート」

金沢に拠点を置くアーティスト支援団体「ひいなアクション」と共同で、能登半島地震復興をアートで支援するプロジェクト、“能登のこれからをアートでつくる”「ノト・コレカラート(<https://www.art-archive.net/>)”の立ち上げ(8月)

4. PMoA セミナー@渋谷

PMoA セミナー「アートって、プロジェクトなの? ~プロジェクト実践者に聞く!」を渋谷にて開催(9/25)。計6名のアート・プロジェクト実践者にご登壇いただき、実践事例の紹介および、プロジェクトマネジメント視点でのディスカッションを実施

5. アート・プロジェクト体験プログラム@熱海

PM Award 2024ファイナリストであるPROJECT ATAMIさま協力の下、「熱海アートグラント2024」開催期間中に「アート・プロジェクトのリアルを知る、クリエイティブ対意見プログラム」を熱海で開催(11/23)。またPROJECT ATAMIとの今後の協業促進に向けた勉強会・意見交換を同地にて開催(11/24)。

なお2025年度は、アート・プロジェクトのプロジェクトマネジメント視点での調査研究を強化するとともに、活動の第2段階として過去2年間で構築したアート・プロジェクト実践者や各種イベント参加者との人的関係を活かしたコミュニティの立ち上げ活動を本格化させます。また、協業団体のとの関係強化として、PROJECT ATAMIが立ち上げた「ATAMI ART LINK DAO」の運営等、デジタル技術を活用した新規事業開発を中心にプロジェクトマネジメント視点での協力を行う予定です。PMoAの活動にご興味がある方はお問い合わせください!



コミュニティ活動

PMI日本支部 理事 杉原 秀保

コミュニティ活動は、通常の部会(研究会・委員会・プログラム)活動とは異なり日本支部に入会していない一般の方でも参加いただける数少ない活動スキームです。日本支部が世の中のトレンドをいち早く取り入れ、コミュニティ活動を通じて日本支部への理解を深めていただき、後々日本支部へ入会していただくキッカケとなることを狙いとしています。

現在、8つのコミュニティ活動(DAコミュニティ、女性コミュニティ、AI@Work、未来創造コミュニティ、建設コミュニティ、行政コミュニティ、地域コミュニティ、シニア

コミュニティ)があり、多くの方がコミュニティ活動の趣旨や目指すべき方向性に賛同の上で参加いただいています。

2024年は行政コミュニティ、地域コミュニティ、シニアコミュニティが新設されたほか、既存コミュニティの会員数も増加が目立つなど、コミュニティ活動に対するニーズが高まっている状況です。

参加無料となっていますので、コミュニティ活動の内容をご確認いただき興味のあるものがあれば是非お気軽にご参加ください。

COLUMN

女性コミュニティ副代表、SDGsスタートアップ研究会 菊池 由美子



2024年は女性コミュニティ副代表として、メンバーと一緒にPM教育動画の作成や外部講師をお招きしたリアルイベント開催にチャレンジし、SDGs研ではPMOとしてセミナー企画や研究会メンバーを率いた産廃センターの見学などアクティブに活動させていただきました。夏のリーダー合宿では、誕生日をサプライズで祝っていただいたのも忘れられない思い出です。PMIの支部活動に関わらせていただいて3年、いよいよ私のサードプレイスとしてなくてはならない存在になっています!

ニュースレター100号

PMI日本支部 事務局 中谷 光夫

2024年9月、ニュースレターが記念すべき100号を迎えました。

この十数年は季刊が定着していますが以前は年に2回発行の年もあり、外部主要機関には印刷物として郵送配布していた時代がありました。2011年には編集主体が部会(情報宣伝委員会)から事務局へ移管され、会員以外の方々にも内容を開示するという変革も経験しています。

今や、アニュアルレポート、メールマガジン、プロジェクトマネジメント研究報告、さらにはYouTube動画やLinkedInなどソーシャルメディアへと質、量ともに日本支部からの情報発信ツールは充実を重ねる中、現在のニュースレターはホームページ上でのPDFによる配布方式に移行しています。

近年、TikTokに代表される短時間動画が好まれています。踏み込んだ内容説明には一定量の文章が必要になります。アニュアルレポートでは、1トピックス1段落程度で事実のみに限定せざるを得ませんが、ニュースレターでは、1~2ページの紙面を費やして当事者の思いを語ることができます。日本フォーラムや

Japan Festaなどイベントの記録、部会や法人スポンサーの紹介、新任理事挨拶など日本支部の歴史を紡ぎ、季節や時代の移り変わりを伝えてきたのがニュースレターでした。

これからも会員の皆さまの思いを伝え、記録に残すメディアとして一緒に育てていただければ幸いです。



2023-2025中期計画の進捗確認

PMI日本支部 理事 森田 公至

2022年に2023-2025の中期計画を策定し、2024年は中間の年になりました。戦略委員会を中心に戦略施策の実行を行っており、中間での進捗状況を確認しました。

【中期計画 2023年 -2025年】
ミッション

日本支部は、会員がプロジェクトマネジメントを通じて社会、組織、個人の価値を実現することに持続的に貢献する。

ビジョン

プロジェクトマネジメントを理解し、使いこなすことがすべての世代の基礎スキルとして認知されている。

・ミッションとビジョンを実現するために、以下の方針で中期計画に取り組む。

- 1. 「個人のライフステージ」に応じた価値の実現を訴求する。

- 2. 支部から個人へ、個人から組織・社会へと、「プロジェクトマネジメントの有用性」の伝搬が、サイクルとして好循環するよう取り組む。

・ミッションとビジョンの実現に向けて、中期計画では以下の主要課題に取り組む。

- 1. 多様な会員ニーズに応じた魅力ある価値の提供
- 2. プロジェクトマネジメントの社会での認知度向上
- 3. 迅速な意思決定とタイムリーな施策実現が可能な支部運営体制の確立

【各戦略委員会の課題解決施策】

掲げた3つの課題に対して、2024年度の施策進捗状況は以下のとおりです。

課題1. 多様な会員ニーズに応じた魅力ある価値の提供

番号	対象	施策	ステータス	推進主体
1-1	会員、非会員、スポンサー	新WEBサイトの活用による価値ある情報提供	継続	会員サービス委員会 PMコミュニティ活性化委員会
1-2	会員	PMIの新たなサービスやプロダクトを評価し、日本に適用できるものを紹介する	継続中	国際連携委員会
1-3	会員	標準類を評価・選択し、日本語版を提供する	継続中	標準推進委員会
1-4	会員	セミナー等の適切な手段により標準類を広める	継続中	標準推進委員会
1-5	地域(会員・非会員)	地域における会員・非会員へプロジェクトマネジメントの価値提供	継続中	地域サービス委員会
1-6	地域(会員・非会員)	地域活動の正式コミュニティ化(PMIJの組織として)を進める	新規	地域サービス委員会 PMコミュニティ活性化
1-7	支部会員・見込み会員・アカデミックスポンサー・法人スポンサー	社会人向けにリカレント教育、リスキングのコンテンツ及び実施基盤としてのプロジェクトマネジメントの啓発	継続中	教育国際化委員会 (組織拡大委員会)
1-8	アカデミックスポンサー	アカデミックスポンサー同士の意見交換の場の提供	継続中	教育国際化委員会
1-9	法人スポンサー	法人スポンサーの満足度の向上を行う	継続中	組織拡大委員会
1-10	非会員	若手コミュニティの創設	完了	組織拡大委員会
1-11	アクティブメンバー	支部会員のリーダーシップ育成	継続中	PMコミュニティ活性化委員会
1-12	アクティブメンバー、支部会員、見込会員	会員ニーズ把握と情報発信	継続中	PMコミュニティ活性化委員会

課題2. プロジェクトマネジメントの社会での認知度向上

番号	対象	施策	ステータス	推進主体
2-1	ATP	ATPとの関係強化	未着手	組織拡大委員会
2-2	非会員	個人会員の拡大(全般)	継続中 (一部未着手)	組織拡大委員会
2-3	若手層(会員・非会員)	若手層に向けたプロジェクトマネジメントの訴求	継続中	組織拡大委員会
2-4	非会員・スポンサー	新WEBサイトを活用し情報提供/問い合わせ/場の提供する	新規	会員サービス委員会 ※新たな運営体制の確立
2-5	会員・非会員・スポンサー	SNSを活用したPMI情報の展開	新規&継続	環境構築:会員サービス委員会 コンテンツ:各部会
2-6	グローバル	グローバルでのプレゼンスを向上させる	継続中	国際連携委員会
2-7	会員・非会員	標準類の読者層を拡大する	新規	標準推進委員会
2-8	地域(会員・非会員)	地域コミュニティの活動拡大	継続中	地域サービス委員会
2-9	行政・教育機関(大学、高校等)・法人スポンサー	地域での産学官連携によるプロジェクトマネジメントの価値提供	新規	地域サービス委員会 教育国際化、組織拡大など連携
2-10	地域行政	行政へのプロジェクトマネジメント普及・行政スポンサーの増加	新規	地域サービス委員会 組織拡大委員会など連携
2-11	アカデミックスポンサー・学生・生徒	学生向けのプロジェクトマネジメント概念の普及	継続中	教育国際化委員会
2-12	学生・生徒・法人スポンサー	学生と企業とのコラボレーションによる双方への魅力創出	新規	教育国際化委員会 組織拡大委員会
2-13	法人・非会員	法人向け施策を充実させて法人スポンサーや会員の拡大を進める	継続中	組織拡大委員会
2-14	法人・非会員	他団体との連携によるプロジェクトマネジメントの普及	継続中	組織拡大委員会
2-15	企業・団体・非会員	PMAwardを通じてプロジェクトマネジメントの社会での認知度向上	未着手	組織拡大委員会

課題3. 迅速な意思決定とタイムリーな施策実現ができる支部運営体制の確立

2024年度は、重点施策の洗い出しとそれを担当する戦略委員会の検討を行い、主な重点施策を7つ定義し、中長期なディスカッションを実施しました。

- » 多様な業種のコミュニティ増
- » 海外イベントでの発表者を派遣
- » 若手・学生へのPM普及
- » 事務局・専門スタッフの必要性
- » 企業が求める研修窓口(法人スポンサーとATPマッチング)
- » 理事体制見直し
- » 部会・コミュニティ整理

このうち、いくつかの実績をお伝えします。

＜多様な業種のコミュニティ増＞

2024年度は、地域コミュニティとシニアコミュニティが新規に立ち上がり計8種となりました。また、会員による部会として「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」メンバーを12月に募集開始し70名以上の方々からの参加表明がありました。40歳以下の若い世代が半数以上を占める研究会が始動します。

＜海外イベントでの発表者を派遣＞

2024年1月の理事会にて、日本からの情報発信の機会、会員サービスの一環として、PMI主催海外イベントに講演者として選出された支部会員への参加費用支援プログラムが承認されました。

これを受けて、9月18-21日 Global Summit 2024 in Los Angelesでの支部会員による講演参加関連費用を支援しました。このトライアルをベースに今後も継続して実施いく予定です。

＜事務局、専門スタッフの必要性＞

支部会員数は順調に増加しており、会員サポートなど事務局のワークロードが増加傾向にあります。また、事務局員の高齢化が進む中、出版関連、各種イベント対応などその業務は多岐にわたります。ローテーションなど含めた属人化の排除、事務作業の自動化、AIの積極的活用など今後の中期計画では具体的施策を強化していきたいと考えています。

2025年は次期中期計画の策定(2026年～2028年)となります。現在の中期計画の結果を反映させ、ステークホルダーの皆さまへ価値を還元できるような施策を検討・実施していきたいと考えています。

個人会員制度

会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®などの取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI 関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI 関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

日本支部会員の特典

1. セミナー受講費の割引

2023年の後半から徐々に再開したオンサイトセミナーは、2024年は(利便性を加味してオンライン・オンデマンド併用方式を採用しつつ)あらゆる有料セミナーで復活を果たしました。

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連、PMI 標準など各種有料セミナー(次ページの図参照)に割引料金で参加いただきました。

また、ほとんど全ての有料セミナーについてはPDU、ITC 実践力ポイントの受講証明書を発行しています。

2. 各種委員会、研究会活動への参加

各種の委員会、研究会、プログラム、コミュニティ等にメンバーとして参加(すべてZoomやSlackなどのコミュニケーションツールを活用)することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々との情報共有・交流をしながらPDUも取得できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催する日本フォーラムで発表されており、2024年度は部会・コミュニティから41セッション、法人スポンサー・スタディグループから3セッション、協賛企業様から11編の講演がありました。これら全てのセッションがオンデマンド形式で7週間余にわたり提供され多くの方々に受講いただきました。

非会員の方々にも参加いただけるコミュニティとして2024年には行政、シニア、地域の3つが続々と誕生したほか、久しぶりに新規部会として「はじめてのプロジェクトマネジメント

研究会」が加わりました。

(戦略委員会)

- ①地域サービス、②PMコミュニティ活性化、③組織拡大、④国際連携、⑤教育国際化、⑥標準推進、⑦会員サービス

(研究会)

- ①IT、②IPPM、③ポートフォリオ・プログラム、④PMタレントコンピテンシー、⑤組織的PM、⑥リスク・マネジメント、⑦PMO、⑧PMツール、⑨PM教育、⑩プロジェクトマネジメント、⑪ビジネス・アナリシス、⑫ソーシャルPM、⑬アジャイル、⑭ステークホルダー・エンゲージメント、⑮PM翻訳・出版、⑯IRC、⑰SDGsスタートアップ、⑱はじめてのPM

(プログラム)

- ①PMBOK®セミナー、②セミナー

(プロジェクト)

- ①PMI日本フォーラム、②PMI Japan Festa

(関西ブランチ)

- ①運営委員会、②PM実践研究会、③医療PM研究会、④IT上流工程研究会、⑤定量的PM事例研究会、⑥PM創生研究会

(中部ブランチ)

- ①運営委員会、②PMサロン、③地域ソーシャル・マネジメント研究会

(コミュニティ)

- ①女性、②AI@Work、③DA、④建設、⑤未来創造、⑥地域、⑦行政、⑧シニア

3. 新規入会の方へのオリエンテーション

日本支部に入会して間もない方を対象に無料のオリエンテーションを開催(年間3回)し、PMI本部や日本支部の概要、部会活動状況等を紹介しています。また、「部会紹介セミナー」を開催(年間2回)し、会員の方々の部会活動への参加を啓蒙しています。

4. プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページの日本支部オンラインショップを通じて『PMBOK®ガイド第7版』、『ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー(WBS)実務標準』、『プロセス群:実務ガイド』などのプロジェクトマネジメント関連書籍を支部会員価格でご購入いただけます。



入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。なお、一部に消費税が加算されますのでご注意ください。

日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

※消費税対象			
PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費(※)	年会費(※)	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル

PMI日本支部が主催するセミナーの種類

種類	セミナー名称	内容	開催頻度	受講証明書
外部講師招請によるもの	日本フォーラム	国内外の産官学のリーダーによる講演、各部会成果の発表	土日、1回/年	12PDU/回
	Japan Festa	国内の産業界・ベンチャー企業等のリーダーによる講演	土日、1回/年	10PDU/回
	アジャイル研修	アジャイル関連のW/S形式講義	平日、2回/年	7PDU/回
	PGM実践WS	プログラムマネジメントの必要性をW/S形式で解説	平日、1回/年	7PDU/回
	会議ファシリテーション基礎	会議ファシリテーションの基本をW/S形式で講義	平日、1回/年	7PDU/回
	PMoAセミナー	地域課題解決を目指すアート・プロジェクトのリアルを学習	平日・土曜、2回/年	3PDU/年
	PFM実践WS	体系的アプローチによるプロジェクト取捨選択方法を解説	平日、1回/年	2PDU/回
	月例セミナー	各界のリーダー・識者による講演	平日・土曜、6回/年	2PDU/回
	関西セミナー	各界のリーダー・識者による講演	平日、2回/年	2PDU/回
	SDGsスタートアップセミナー	SDGsスタートアップ方法論を講義形式で習得	土曜、1回/年	—
理事・部会メンバーが講師を務めるもの	未来創造セミナー	若手向けプロジェクト入門講座、WS	平日・日曜、5回/年	—
	PMBOK7(詳細版)	PMBOK®ガイド第7版の詳細解説	土日、2回/年	14PDU/回
	戦略的PMO実践WS	PMOの位置づけと業務遂行方法	土曜、1回/年	4PDU/回
	PM実践WS	ショートケースによりPMの実践力向上を図る参加型W/S	土曜、2回/年	2.75PDU/回
	標準セミナー	PMI標準関連の紹介・解説	平日、数回/年	—
法人スポンサー向け	関西成果発表会	関西ブランチ所属各研究会の活動成果発表・交流会	土曜、1回/年	—
	地域セミナー	全国6地域で、各地に根ざしたPM活動の紹介	土曜、6回/年	—
法人スポンサー向け	法人スポンサー連絡会	特集テーマを設け講師を招請、法人スポンサー・SGの成果発表	平日、4回/年	3PDU/回

〔参考〕日本支部会員数、日本国内におけるPMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年 度			
	2021	2022	2023	2024
PMI日本支部会員	5,026	5,704	6,133	6,522
CAPM®資格保有者	342	484	601	670
PMP®資格保有者	40,191	42,463	45,058	48,404
PfMP®資格保有者	10	10	16	21
PgMP®資格保有者	16	22	29	38
PMI-RMP®資格保有者	11	17	20	22
PMI-SP®資格保有者	7	7	9	8
PMI-PBA®資格保有者	18	20	21	18
PMI-ACP®資格保有者	259	374	447	532
DASM®資格保有者	13	43	56	140
DASSM®資格保有者	14	41	49	54
DAC®資格保有者	0	10	14	17
DAVSC®資格保有者	0	2	2	8

〔参考〕全世界でのPMI会員数、PMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年 度			
	2021	2022	2023	2024
PMI会員	685,880	661,201	707,049	740,077
CAPM®資格保有者	56,816	63,791	68,291	67,537
PMP®資格保有者	1,249,607	1,284,829	1,448,971	1,570,438
PfMP®資格保有者	1,161	1,340	1,708	2,268
PgMP®資格保有者	3,497	4,077	5,353	7,724
PMI-RMP®資格保有者	9,711	13,086	16,688	20,209
PMI-SP®資格保有者	2,574	2,809	3,357	3,923
PMI-PBA®資格保有者	5,385	5,984	7,314	8,496
PMI-ACP®資格保有者	48,098	52,263	59,456	64,282
DASM®資格保有者	2,782	4,559	5,628	5,050
DASSM®資格保有者	1,489	3,834	3,088	2,963
DAC®資格保有者	41	135	218	275
DAVSC®資格保有者	33	70	125	181

法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

日本支部における「法人スポンサー」とは、組織としてプロジェクトマネジメント向上に関心を持ち、支部のミッションにご理解をいただき、その活動を支援していただける企業、公益法人および団体の集まりです。法人スポンサー・プログラムは、法人スポンサーおよび、その社員の方々へ支部が提供する各種サービスです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

- ◆ 日本では数少ない、組織のPM部門長、プロジェクトマネジメント推進に係るご担当および関係者同士の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場です。法人スポンサー連絡会では、グローバル・ビジネスにおけるPMの役割やPMの技術トレンド等をご紹介します(年3回)、企業のPM部門長や上級管理者が抱える課題・ニーズに対して相互コミュニケーションや研鑽の場をご提供しています(年1回)。
- ◆ 法人スポンサー所属社員のみで構成されるスタディー・グループ(SG、月次開催)にメンバーとして無料で参加いただけます。スタディー・グループは「企業横断研究会」であり、業種、企業の枠を超えた研鑽、交流の場となっています。
- ◆ メールマガジン(毎月配信)により法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し、特別割引が受けられます。
- ◆ 法人スポンサーとして会社ロゴ、会社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として広く社会にアピールすることができます。

2024年 法人スポンサー・プログラム実績

(1)法人スポンサー連絡会

法人スポンサー連絡会は、PMおよびPM人材育成部門の方々にPM界の最新情報をお伝えするもので、法人スポンサー企業様社員の方のみが参加いただけるものです。2024年は6月度と12月度の連絡会については「会場開催+リアルタイム配信+オンデマンド配信」、3月度と9月度の連絡会については「リアルタイム配信+オンデマンド配信」で実施しました。各回の参加者は3月(申込151名)、6月(同164名)、9月(同157名)および、12月(同183名)の4回で、無料でPDU受講証明書(2.0～3.5PDU)を発行しています。



(2)成果物の公開

- ◆ 若手PM育成SGでは、2024年8月に、「これからの時代におけるPM選任のためのPM特性表」を法人スポンサー向けに公開しました。若手PM育成SGは、2010年11月に当時の日本支部法人スポンサーアンケートで「若手PM育成」が喫緊の課題ということで設立されました。PM候補者選定のための「PM特性表」を発表から約10年経過したタイミングで、昨今のプロジェクト環境の変化に合わせて見直しました。PM選任だけでなく、育成、PM自身のスキル向上のために求められる行動として読むことも可能ですので、是非ご活用ください。

- ◆ 人材育成SGでは、2024年3月にプロジェクトマネジメント研究報告(Vol.4 No.12024)に以下の2つの論文を発表しました。
 - ◎ Study Group 活動へのアジャイルの活用
 - ー 制約条件がある中で少しずつでもアウトプットを出し続けるにはー
 - 最上千佳子
 - ◎ シナリオを用いたプロジェクトマネジメントパワースキル向上教育の取り組み
 - ー 「プロジェクト・マネジャーの人間力強化書」の活用事例ー
 - 三好きよみ
- ◆ ケースメソッドSGでは、2025年1月に、「ケースメソッド実践ガイド」を法人スポンサー向けに公開すべく準備を進めていますので今しばらくお待ちください。

(3)法人スポンサー・スタディー・グループ(SG)

スタディー・グループは、法人スポンサー企業所属社員のみで構成される「企業横断研究会」で、企業が共通して抱える課題、対応すべき事柄について意見交換、調査研究を行っています。2024年度は延べ43社から50名の方々が3つのグループに分かれて活動し、その活動成果を12月度法人スポンサー連絡会で発表いただきました。各スタディー・グループの活動概要は下記の通りです。

◆人材育成スタディー・グループ

プロジェクト・マネジャーのあるべき人間力の強化に

フォーカスし、PMCDF(プロジェクト・マネジメント・コンピテンシー開発体系)の「人間力(人格コンピテンシー)」を研究しています。2024年は日頃の活動成果として2つの論文を発表しました。また、一流のPMになる人/なりたい人のための「プロマネ格言!カルタ」(ヒューマンパワー・カード)を開発中です。一流のPMが取っている具体的な行動を知り、自身の活動の参考にすることを目指しています。

◆若手PM育成スタディー・グループ

2010年のSG創設以来、「入社5年目を目途としてこれからPMになる人、PMになりたての人」に対する課題の発見、対応策について研究しています。過去に設定した3つのテーマに加え「これからの若手PM育成」を第4テーマとして、PMコンピテンシーのモダナイゼーション、具体的には第1テーマ成果物「PM特性表」の見直しを行い、成果物として2024年8月に、「これからの時代におけるPM選任のためのPM特性表」を法人スポンサー向けに公開しました。

◆ケースメソッドスタディー・グループ

“ケースメソッド”とは、参加者中心型の主体的な学びを実施するための教育手法として世界中で実践され、参加者がケース(事例)に登場する当事者になり切って疑似体験する学習手法です。2024年はケースメソッド実践ガイド制作、プロジェクトマネジメント実行上の悩みごと相談、日本フォーラムでの発表を行い、新たに得られた学び・気づき・反省点などを整理し、結果を抽象化し、『ケースメソッド実践ガイド』の2025年1月法人スポンサー向けの公開を目指して、活動を進めました。

アカデミック・スポンサー・プログラム

日本におけるプロジェクトマネジメントの発展に理解を示し、PM関連の教育を実践する国内の大学、短大、高等専門学校、高等学校、中学校等ならびに公的研究機関を日本支部アカデミック・スポンサーとして登録しています。2024年12月末時点での登録数は56となります。

【2024年度の活動について】

- ◆ 2024年度の活動では、プロジェクトマネジメントおよび支部活動に関する各種情報提供の他、以下を行いました。
 - 日本フォーラムでのアカデミック・トラックの開催
 - アカデミック・スポンサー情報交換会の開催
 - プロジェクトマネジメント研究報告の編纂・公開

①日本フォーラムでのアカデミック・トラックの開催

2024年度は8セッション、9講演をオンデマンド配信方

式で提供しました。

No.	講演タイトル
A-01	社会人大学院におけるプロジェクトマネジメント教育ー未来のリーダーの育成に向けてー
A-02	PBL授業をコ・デザインする ～コ・デザイン・プロジェクト担当教員のチームビルディング～
A-03	PM教育とPBLー東京都立産業技術大学院大学と第一工科大学の事例紹介ー
A-04	モンゴルでの日本式高専の導入に関する歴史的考察ーモンゴルとマレーシアとの高専プログラムの比較教育学研究ー
A-05	学生向けPM教育ワークショップの実践報告
A-06	筑波大学における実践的IT教育の取り組み事例
A-07	大学院生を対象としたプロジェクトマネジメント教育及びリーダーシップ教育の授業設計
	実顧客が存在するPBL型教育による実用システム開発の事例
A-08	高専のGEARプロジェクトとこれからのスタートアップ

②アカデミック・スポンサー情報交換会の開催

アカデミック・スポンサーの教職員の皆さまとのインタラクティブな交流機会として情報交換会を開催しています。2024年度はオンライン形式で8月に開催しました。

開催回	開催日	開催内容
第1回 (オンライン)	2024年 8月28日 (水)	1. セミナー:「社会で生き抜くためのプロジェクト・マネジメント教育のために私たちは何が出来るのかを考える」 2. ワークショップ: ① PM教育についての基本的理解の共有 ② 大学におけるPM教育の実態調査方法 3. PMI日本支部からのお知らせ ① 2024 AP-SA Leadership Institute Meeting 参加報告 ② 「PM研究報告」のご紹介

③プロジェクトマネジメント研究報告の編纂・公開

日本支部ではプロジェクトマネジメントに関する調査・研究成果をプロジェクトマネジメント研究報告として2021年度から編纂・公開しており、日本だけでなく、世界各国から多くのアクセスがあります。2024年度版は第5号として2025年3月末にJ-STAGEで公開予定です。第5号には17件の掲載申請があり、アカデミック・スポンサー校の先生方のご協力の下、編纂作業を行いました。なお、過去(第1～4号)についてはJ-STAGE(<https://www.jstage.jst.go.jp/>)にてご覧ください。

行政プログラム

行政プログラムは法人スポンサー向けと同等のサービスを自治体や省庁などの行政組織に享受していただく仕組みです。行政分野では、行政コミュニティも立ち上がり、全国の自治体職員の方々が参加されています。行政スポンサーには、先進的な取り組みをされている広島県福山市様をはじめ、広島県総務局県庁情報システム担当様、三重県桑名市様、滋賀県大津市市民部

様に参加いただいています。オペレーションが中心だった行政組織から、今や複雑な事業(プロジェクト)を担う組織へ変貌しつつある地方自治体や省庁。行政の事業にはプロジェクトマネジメントが必須になっています。今後も行政スポンサー向けの取組みを活発に進めていきます。

非会員向け | 支部紹介オリエンテーション

本活動はPMP®等PMI 資格の保有者・取得予定者で支部未入会者を対象に、日本支部の活動や会員になるメリットを紹介し、新規入会を促進することを目的としています。

企画・運営は組織拡大委員会を中心に行っており、2023年度は3月、6月、9月の計3回オンライン形式で開催しました。セミナーでは資格の活用ポイントや効率的なPDU獲得方法に加え、キャリアアップの場として支部活動を紹介しています。また後半では小グループに分かれての質疑・意見交換なども実施しています。

2024年度は延べ113名の方々に参加いただき、うち30名の方が本セミナー経由で入会されました。本活動は2025年度も同様の形式で継続予定です。

法人向け | 支部紹介セミナー

本セミナーは日本支部の活動に興味・関心を持っていただいた法人担当者を対象に2022年度から定期的に開催しています。セミナーでは日本支部および、法人スポンサープログラムのご紹介のほか、法人スポンサー連絡会にて好評だった講演をアレンジして提供し、実務に役立つ情報提供も行っています。2024年度は2月

29日にオンライン形式にて開催し、30名の企業担当者にお申し込みいただきました。当日は「PMI標準」をテーマに、「進化するPMI標準」(講演)、法人スポンサーのスタディグループ(SG)活動報告等を録画講演にて視聴いただきました。

会員向け | 新入会オリエンテーション

新入会オリエンテーションは、日本支部に入会いただいてから日が浅くて支部会員特典の活用方法がわからないという方向けに、年3回開催しています。

内容は、1.PMI本部、2.日本支部、3.部会活動を1時間でご紹介し、1.0PDUの受講証明書を発行しています。また、部会活動をより詳しく知りたい方向けに、

Zoomのブレイクアウトセッションを利用した個別説明会(ネットワーキング)も実施するなど、先輩支部会員とのコミュニケーション機会も提供しています。無料で参加いただけますので、気軽にご参加ください。

会員向け | 部会紹介セミナー

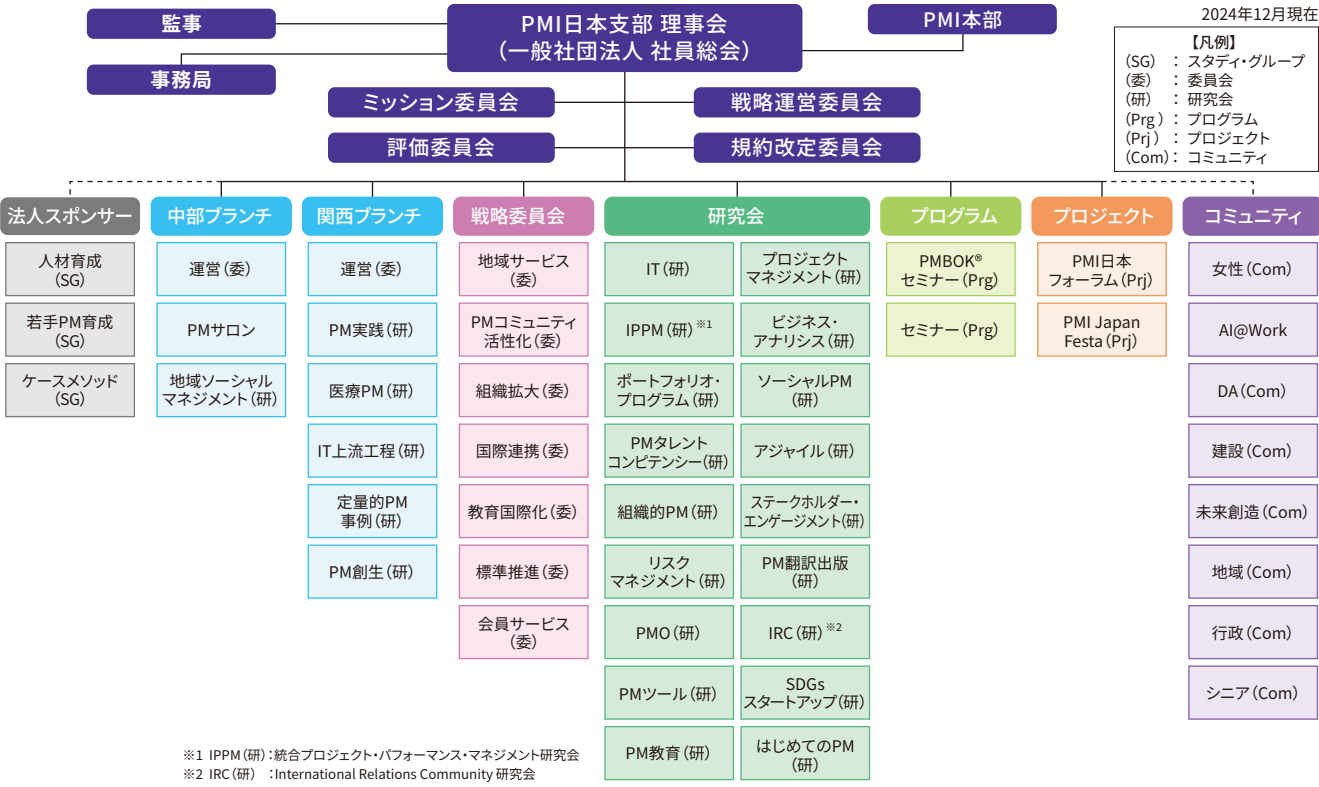
部会紹介セミナーは、日本支部に入会したもののその活用方法がわからない方、部会に興味はあるものの参加に躊躇されている方々向けに、部会を知っていただき入会していただくことを目的に開催しています。

2024年はオンラインでの部会紹介セミナーを6月・12月の2回開催し、各回3つの部会を特集しました。セミナーは2部制で、第一部は部会活動全般のご説明と各

部会メンバーからのプレゼンテーション、第二部は部会別に直接メンバーとの交流会、という構成です。

開催後の参加者アンケートでは各回好評価をいただいております。当日プレゼンした部会に一定数の方々が見学・入会される結果に繋がっています。

組織構成



ミッション委員会

ミッション委員会は理事会直轄にある支部のミッションや支部の在り方を検討し理事会に提案しています。中期計画の策定やモニタリングを行うと共に支部の運営や組織に関する検討も担います。2024年は2023年度から2025年度の次期中期計画の進捗を評価しました。支部の重点施策に関して、教育関連/事務局体制/法人スポンサーへの対応/マーケティングへの投資などさまざまな議論を行い、次期中期計画へ反映するテーマなどの洗い出しなどを実施しました。

戦略運営委員会

日本支部では毎年すべての部会が年間計画を立案しています。戦略運営委員会では各部会と調整し年間スケジュールを作成した後、その適正を確認しています。毎月開催される戦略運営委員会では支部戦略を担う各戦略委員会の横連携を実施し、各部会から上程される審議・報告事項をとりまとめ、理事会へ起案して円滑な運営に寄与しています。また、PMI本部からの予算を獲得して、当該施策内容や予算額の調整を本部と行い、実行のモニタリングを行います。このほか、支部会員が支部会員の肩書きで対外発信(講演や執筆など)する際の届けを受理する役割も担っています。

評価委員会

評価委員会は、事務局長を含む事務局職員の給与・賞与について、事務局長の提案を受けて、同様な非営利団体の状況、日本支部の財務状況、職員間のバランス・貢献状況な

どを勘案して理事会に提案します。また、会員・部会表彰者の選考を行い、理事会に提案します。

2024年は、2022年に導入した人事評価制度に基づいて事務局員評価を実施した他、インフレに対応した給与水準の見直しを実施しました。

規約改定委員会

規約改定委員会では、日本支部旅費・交通費規程、日本支部 理事選挙の Eligible Criteria と投票形態の規程、物品・サービスの調達規程などの改定を実施しました。また、就業規程の改定にも着手を始めました。長らく見直しが出来なかった規程に関して、時代や現状にあった改定を進めてきました。今後も多数ある支部の規定類の改善・改定を進めていきます。

財務委員会

財務委員会では、2023年12月に決議された支部予算に基づき、承認プロセスに則り予算の執行を管理しました。また、期中に申請された見直し予算、追加予算について、申請部会と協議を実施しコメント等を付すとともに、戦略運営委員会・理事会には、申請された見直し予算、追加予算の支部損益に対する影響について見解を報告しました。支部の収益を部会活動に有効活用していただくために、研究会を対象にしていた裁量予算を戦略委員会にも拡大し、活用の推進を図りました。12月に戦略運営委員会とともに2025年度支部予算を編成し、理事会の承認を得ました。

戦略委員会

地域サービス委員会

地域の支部会員へのサービス向上、新しい地域コミュニティの形成と活動の活性化、地域行政・アカデミック・法人スポンサーとの連携を目標に活動しています。2024年度も継続して定例委員会、全国6カ所での地域セミナーの会場開催、地域内での勉強会、交流会等を実施しました。年末には全国各地に在住するメンバーが参集してFace to Face会議を開催し、親交を深めることができました。全国諸地域で同じ目的意識を共有し、情報交換できる貴重な機会、場であることを実感しています。今後も従来の活動に加え、新たな地域で会員同士を結び付ける活動を進めて参ります。

PM コミュニティ活性化委員会

日本支部会員のコミュニティを活性化するための交流の場や情報を提供し、アクティブメンバーの増加や日本支部の価値向上を目的に活動しています。2024年度は、若手向けの次世代リーダーシップミーティングを開催し、PMI AP(アジア・パシフィック)講演や我々の未来を考えるワークショップ、交流会など大変好評でした。この他、部会リーダー交流会や新入会オリエンテーション、部会紹介セミナー、LM2024など、年間通じて日本支部の活性化に取り組んでいます。

組織拡大委員会

組織拡大委員会は、日本支部会員増を通じて日本のPMコミュニティ発展を目的に活動しています。2024年度は、個人会員・法人スポンサーとともに過去最多を更新し、支部会員のメリットを幅広い層に伝えることができました。PM Awardでは多くの参加者を集め、未来創造プログラムでは新社会人や若手を支援。さらに、中学生対象のPM演習ではビジネス判断力の向上を確認し、NPOに加え大学職員向けにPM基礎研修を提供するなど、支部活動の幅を広げた一年となりました。

COLUMN



組織拡大委員会(プロジェクトマネジメント基礎研修プログラム)、アジャイル研究会
鳥本 明男

NPOと大学の職員向けにプロジェクトマネジメント基礎研修(演習)を実施しています。演習では受講者の実際の活動を題材にすることでプロジェクトマネジメントを身近に感じてもらい、その成果物は実際のプロジェクトに活用いただいています。演習には入念な準備をしたプログラムのメンバーがアドバイザーとして同席し、質問にはその場で具体例を示しながら回答しています。これからも、このようなメンバーと共に社会貢献に繋がる取り組みを続けていきます。

国際連携委員会

国際連携委員会は、PMI本部やPMI-AP、他支部との連携強化を図り、日本支部のプレゼンス向上や支部活動の充実に取り組んでいます。2024年度はPMIの表彰制度の一つであるChapter of the Year Awardに応募し、ファイナリストに選出されました。また、北米で開催されたPMI Global Summitにおける講演者支援プログラムをスタートし、支部会員2名が現地で講

演を行いました。理事による海外イベントでの講演活動やパネル・ディスカッションへの登壇も多数実施しました。

教育国際化委員会

教育国際化委員会は、産業界と教育機関の委員が連携して、プロジェクトマネジメントが中学校から大学、大学院の教育の向上に寄与することを目指して活動しています。日本フォーラムのアカデミックトラックでは、学部教育、大学院、社会人向け教育などの多様なプロジェクトマネジメント教育実践を共有しました。さらに、アカデミックスポンサー連絡会では、これからのプロジェクトマネジメント教育の方向について検討を行い、アンケート調査を実施しました。また、2010年に芝浦工業大学附属中学高等学校、芝浦工業大学とNPO 法人プロジェクトマネジメントインキュベーション協会の連携でスタートした中学生向けのプロジェクトマネジメントワークショップを引継ぎ、2021年度から日本支部が模型飛行機プロジェクトとして刷新していますが、2024年度はプロジェクトにコスト概念を入れる等の改良を重ねて開催しました。

標準推進委員会

標準推進委員会は「PMI®の標準書、実務ガイド等を調査、選択、翻訳し、日本のPMコミュニティへ提供すること」をミッションとしています。2024年は「ビジネスアナリシス実務ガイド第2版」等3冊の標準類の翻訳を始めました。また、「標準セミナー」を7回実施し、聴講者は累計で延べ5千人を超えました。好評いただいている「まんがで学ぶプロジェクトマネジメント」も継続発行しています。今後も標準類を多くの方々に手に取っていただけるよう取り組んでいきます。

COLUMN

標準推進委員会 普及チーム **谷 徹也**



2022年に引き続き、標準推進委員会における標準普及の取り組みの一つとして マンガ配信施策(『マンガで学ぶプロジェクトマネジメント』と題した定期配信)を担当させていただいています。「PMIの標準をより広い読者層に!」を合言葉に始まった本企画のため、テーマ別・一話完結型とし、隙間時間でも読めるような、手軽さを意識しています。近年の生成AIをはじめとするICT技術の発展にはめぐるしいものがありますが、「マンガ」ならではの読みやすさ・温かさを通じて、幅広い読者層・世界に標準が広まるきっかけとなることを願っています。

会員サービス委員会

会員サービス委員会は PMI 本部の動向をふまえて支部活動全体を俯瞰し、日本支部会員の皆様に向けたさまざまなサービスを提供しています。2024年度 はWEB サイトのリニューアルと拡充、日本フォーラムやJapan Festaをはじめとする各種セミナーの開催、メールマガジンやニューズレターの発行を中心に活動し、教育用動画コンテンツの公開やデジタルバッジ発行レビューといった新たな活動にも取り組みました。今後も、時流や会員の皆さまのニーズをとらえ、PMI 本部情報や日本支部の活動を広く、タイムリーに、そして分かりやすく提供することを念頭に委員一同で活動してまいります。

部会横断活動

リーダーシップ・ミーティング LM2024

LM2024(リーダーシップ・ミーティング)は、PMIや日本支部の方向性を部会リーダーと共有・議論し、参加者のリーダーシップを育成することを目的に年に一度、日本支部の各部会や委員会代表者、理事、事務局メンバーらが全国から集い開催しています。

記念すべき10回目となる今年のLM2024は、L stay & grow晴海にて5年ぶりに合宿形式で開催し、74名もの方に参加いただきました。

1日目は端山会長の開会挨拶にはじまり、続いて麻生副会長からPMIの海外イベントであるマレーシア、クアラルンプールの「AP/SA LIM (Leadership Institute Meeting)」のフィードバックがありました。2024年の新たな取り組みとして、坂上理事のワークショップ趣旨説明の後、外部講師の岡田太陽氏のリードで「オーセンティックリーダーシップ確立に向けたセルフ・アウェアネス」と題して、自身の感情知能や人間性に忠実なリーダーシップを学ぶワークショップを行い初日のカリキュラムは終了。

夕食の後、交流会を開催しましたが、コロナ禍を経て久しぶりの宿泊研修ということもあり、皆さん深夜までお酒を酌み交わしながら熱い議論をされていたのが印象的でした。

2日目はPMI Asia PacificのRegional Head of CommunityであるYeYoon Kim氏から講演「Making PMI:NEXT Strategy A Reality Together」と題してPMIの最新動向をレクチャーいただきましたが、参加者からの質問にもYolandaさんの通訳を介して丁寧に答えくださり、参加者の理解と一体感が例年以上に深まったように感じました。

その後、日本支部の当麻アドバイザーと石井氏のMCによるワークショップで、「私たちに何ができるか?何をしたいのか?」のアイデア出しや、「部会や日本支部として私達にできることの具体的な提言」をチーム毎に纏めた上でスキット(寸劇)形式での発表がありました。各チームとも工夫されたアイデアと迫真の演技で大いに盛り上がり、今後の改善に向けた貴重なアイデアも出ました。

参加者アンケートでもバラエティ豊かなカリキュラムと普段接する機会のない部会メンバーと合宿形式で交流できた大変好評で、あっという間の1.5日間でした。皆さんのご意見も取り入れながら、来年以降も有意義なイベントを企画・運営してまいりますので、よろしくお願いいたします。



部会リーダー交流会

部会リーダー交流会はPMコミュニティ活性化委員会が企画、運営するもので、日本支部と各部会の活動に関する情報共有や部会間連携を機会に部会活動の活性化を目的として年4回開催しています。

今年は例年開催している12月に加え6月にも水天宮の日本支部事務局にてオンサイト開催しましたが、4回目の会場となったTKPガーデンシティPREMIUM秋葉原に

は、海外からのゲスト(PMIアジアパシフィック)や地方参加者を含め70名を超える方々にお集まりいただきました。

PMコミュニティ活性化委員会の杉原委員長の開会宣言にはじまり、端山会長挨拶の後、PMIアジアパシフィックを代表してヨランダ・キム氏(Yolanda Kim)よりPMI APの現状や日本支部への期待などのスピーチがありました。

その後、日本支部の全体活動計画として、戦略運営委員会やミッション委員会からの説明があり、7つの戦略委員会(PMコミュニティ活性化、地域サービス、教育国際化、標準推進、国際連携、会員サービス、組織拡大)や28の部会・コミュニティから、ライトニングトーク形式で(一部リモートも交え)年間活動の総括を発表いただきました。各発表に関する質疑応答も活発に行われ会場開催ならではの交流も生まれたように思います。

第2部の交流会は、坂上理事の乾杯にはじまり、ケータ



首都圏中心の支部会員による部会活動

統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会

2019年に旧EVM研究会から改編した「統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント(IPPM)研究会」は、現在もEVMを中核手段とした総合的なパフォーマンス・マネジメントを調査研究する活動を継続しています。

PMIの新標準「The Standard for Earned Value Management」の翻訳研究を継続して行っています。

現在、統計手法を含む、さまざまな数理手法を駆使してEVMデータからパフォーマンス改善を行う研究成果の報告を、プロジェクトマネジメント研究報告2024に2稿投稿し採録されたほか、2025年版に向けても2編投稿しました。

その他、プロジェクトマネジメントを機械学習や生成AIに結び付ける基本的な知識・技法の習得に向けての研究も継続して行っています。

ポートフォリオ/プログラム研究会

社会課題や経営課題を解決する各種アプローチの追求をミッションとし、毎月の定例会や、プログラムマネジメント標準勉強会、各実践ワークショップを開催しました。

定例会では、ポートフォリオ・プログラムマネジメントを中心に、メンバーが提供したテーマを用い、熱い議論を交わしています。2024年は、全10回の定例会議で延べ270名が参加しました。また、「プログラムマネジメント標準第5版 勉強会」ではメンバーが内容を説明し、参加者からの意見を踏まえて議論することで深堀することができました。加えて、合宿を開催しそれぞれのキャリアや活動について意見を交わしました。



10月の初島合宿

PM タレントコンピテンシー研究会

PMCDF 第3版をリファレンスとして、コンピテンシー育成方法や、新しい PM の役割とコンピテンシーを探索しています。2024 年度は研究会で作成したチェックリストの効果検証や、コンピテンシー研究をテーマに活動しました。

2024年度は2月に合宿を行い、多様なテーマを通じてコンピテンシーについてディスカッションしました。その成果をもとに日本フォーラムで3件発表しました。その中の1件は、研究会で作成したチェックリストと活用法をもとに実際に現場で利用して導入効果を検証したもので、標準セミナーでも発表し好評を得ました。

その他にも、マンガで学ぶプロジェクトマネジメントのシナリオ検討、実践コンピテンシーのチェックリストの作成など、楽しく研究会活動をしています。



合宿の様子

組織的プロジェクトマネジメント研究会

OPM 標準を中心に組織的プロジェクトマネジメント(OPM)の方法論や様々な組織論を研究し、組織へのベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しました。

OPM 標準の解説セミナーは継続して実施していますが、研究会内ではOPM 標準だけでなく、組織のプロジェクトマネジメントに関するさまざまな取り組みについて研究しています。日本フォーラムでは経営理論とプロジェクトマネジメントの関連、および組織の知識マネジメントに関する講演を行いました。

リスク・マネジメント研究会

リスク・マネジメントに関わる議論の場や事例、情報の供給源となるべく活動しています。2024年度は、新標準の紹介やワークショップを通じた普及、内部ではRMP 勉強会などでさらに理解を深めることを目標としました。

対外活動として、2月に新標準紹介セミナーを開催、6月には久しぶりに対面でのワークショップ型セミナーを開催しました。

研究会内では、PMI-RMP 取得のための勉強会を継続的に月2回集まって実施しています。11月には研究会内で研究フォーラムを開催しました。リスク要因に関する研究の成果や個人研究活動の成果などを講演形式で共有しました

(計4件)。

2025年度には、実務ガイド発刊に伴う日本語版作成の活動を実施していく予定です。



ワークショップセミナー後の懇親会の様子

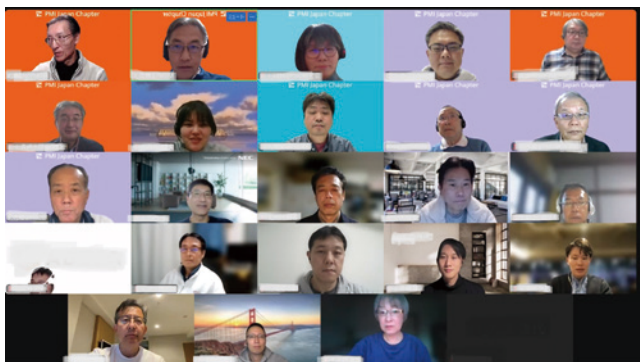
PMO研究会

企業/団体でのPMO 活動に関する研究を通して、日本のPMO の発展/向上を目指しています。2024年度は、5つのWG を中心に、文献・事例調査やワークショップを行い、また戦略的PMO 電子版発刊に併せた部内勉強会を開催しました。

2024年は、オンライン主体の全体月例会、5つのWG 毎の月次ミーティング、日本フォーラムでの講演2編、「戦略的PMO」ワークショップ(2025年1月)に取り組みました。また3か月に1回は全体会をオンライン・オフラインのハイブリッド開催とし、以前のようなオフラインでのコミュニティ再構築にも取り組みました。

加えて2024年1月に再発行された「戦略的PMO」電子版を踏まえ、加入歴の浅い部会メンバーが中心となって、7月～8月に「戦略的PMO」部内勉強会を開催しました。

2025年度は「戦略的PMO」の再普及・再評価に取り組んでいきます。



PMO 研ワークショップ(2025/1/25)時の集合写真

PMツール研究会

プロジェクトマネジメントのツールと技法について実践的な活用法を研究しています。2024年度は生成AIをプロジェクトマネジメントで活用するためのノウハウを形式知化することを目標に活動しました。

当研究会では、参加できるときに参加し、参加できないときは無理せず欠席されることを良しとして、多くのメンバーと出会えることを大切にしています。ユーザ系の企業を中心に

いろいろな立場の方が集まっていますので、新しい視点に出会えます。

2025年度も、メンバーが困っていることや深堀したいツールや技法について深堀していきたいと思っています。ツールや技法はPMBOK®に記載のあるものはもちろん、ビジネスモデルキャンバスといった経営ツールやEMA(Evolutional Mutual Appreciation)といった当研究会オリジナルの技法も研究しています。

PM教育研究会

「プロジェクトマネジメントに関する実践的教育」をミッションとし、メンバー間の知見の共有や大学でのプロジェクトマネジメント講座の実施などを行いました。

各メンバーが行っているPM 教育に関するさまざまな活動報告等をもとに意見交換を行い、メンバー間の知見を高めました。また、2024年も研究会としてのPM 教育の実践として、神奈川県内の短期大学にて一学期(全8回)の「プロジェクトマネジメント」の講義を当研究会のメンバーにて実施しました。

プロジェクトマネジメント研究会

参加メンバーが、興味を持つテーマを研究し、自由闊達に意見交換できる環境を創り、当研究会でレベルアップしたメンバーがさまざまな場で活躍ことをミッションに各活動しました。

定例会では各メンバーが興味あることや課題と感じていることを持ち寄りさまざまなバックグラウンドを持つメンバー間で白熱した議論を交わしました。その他、支部会員以外も参加可能な意見交換の場として「PM-ZEN(禅)」も継続開催しました。また、当研究会が作成した PMBOK®ガイド第7版オンデマンドセミナーが好評のため再配信しました。

ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシスに関する調査・研究を通じて、現場で活用できる具体的な手法を提供することで、ビジネスアナリシスの普及を図ることを目標に活動しています。2023年度からワーキンググループに分かれて活動しています。

日本フォーラムでは『待望の第2版!「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide – Second Edition」のご紹介』、『ビジネスアナリシスによるプロジェクト成功のきっかけ作り ～新しい働き方を実現するためのBA の価値



久々の懇親会(2024年12月)

提案～』の2編を発表しました。また、標準推進委員会と連携してビジネスアナリシス実務ガイド第2版 紹介セミナーを開催しました。

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

社会課題解決の活動に適したPM 手法の開発・普及により、社会の発展に貢献することを目的としています。2024年度は主にソーシャルPM 手法の見直しおよびコミュニティマネジメント研究を目標に活動しました。

2024年度の主な成果は以下のとおりです。1. ウェルビーイングおよびコミュニティマネジメントに関する研究内容を日本フォーラムで講演しました。2. システム思考を取り入れ、ウェルビーイング施策の因果ループ図および社会課題に取り組む団体へのインタビュー結果に基づくパターン・ランゲージを試作しました。3. 社会的活動経験の学びのセッションを実施しました。4. 他部会と協業しプロジェクトマネジメント教育に参加しました。



12月に開催した懇親会の様子

アジャイル研究会

アジャイルに関する調査、情報共有、ディスカッションにより理解を深め、実践、展開し、国内外のアジャイルの醸成に貢献します。各自が主役となり自主的に活動しサポートし合うことで、価値の最大化を目指しています。

月例会ではアジャイルジャパンサテライトによる講演事例を基にしたディスカッションのほか、大学との共同研究内容の共有とディスカッション、メンバーの執筆活動への情報提供、講演活動の結果共有など、扱う内容の幅を広げることができました。その他、「とにかくアジャイルについて語ろう」では参加者が持ち寄ったテーマや疑問に対する意見交換を継続して実施し、メンバー相互の交流とアジャイルに対する知見向上に努めました。



月例会出席者

ステークホルダー・エンゲージメント研究会

PMBOK®ガイドのステークホルダードメインを中心に多様なステークホルダーに対する効果的なマネジメント・エンゲージメント方法を研究し、会員に展開することを目標に活動しました。

2024年2月に支部会員に対して、「どのようなエンゲージメントを行うことで影響を受けたり与えたりしたか」のアンケート調査を実施しました。この結果をPMBOK®ガイド第7版のステークホルダー・パフォーマンス領域やチーム・パフォーマンス領域を含めた形で分析した結果と、影響力・共感力を使ったエンゲージメントの実例を日本フォーラムにて発表しました。

さらに、地域セミナーにスピーカーとして参加させていただくことで、地域による考え方の違いを研究会として吸収するとともに、研究会成果の展開も図りました。

IRC研究会

日本流PMメソッドの海外への発信、また海外におけるPMメソッドの国内への発信を通じて、国内外のPMの交流進化を目指して活動しています。2024年はコミュニティ拡大を目的としたネットワーキングイベントを1回開催しました。

2024年も前年に引き続いて、支部内外の海外PMとの交流拡大を目的としたネットワーキングイベントを1回、企画・開催しました。さまざまな業種から約20名の参加者が集まり、多様なバックグラウンドを持つ参加者によるライトニングトークと、それを受けての活発な議論が行われ、成功裏に終了しました。2025年は部会代表メンバーを交代し、さらに活発な活動に発展させていきたいと考えています。

PMBOK®セミナー・プログラム

PMBOK®ガイドなどの標準類の普及啓発のため、学習機会を提供するセミナーを開催しています。2024年度は前年度に引き続き、PMBOK®ガイド第7版 詳細解説セミナーを6月と11月の2回開催しました。

PMBOK®ガイド第7版 詳細解説セミナーは、2022年度から日本支部で会場開催しているものですが、グループワークを含めてリアルに受講者の反応を見ながら進めており、受講者より高い評価をいただいています。

セミナーテキストは各担当講師の経験を踏まえてカスタマイズしており、現場目線に近い形で受講者に届けることを



PMBOK®ガイド第7版 詳細解説セミナーの様子

大切にしています。

講師に慣れていない方へのサポートも行っていますので、興味がある方はぜひお声がけください。

セミナー・プログラム

例年同様に優良な講師を発掘し、月例セミナーおよび Japan Festa 2024を計画的に実施すること、またこれまで全セミナー完全オンライン開催だったものを、会場開催も行うことを目標としました。

計画に従い月例セミナー6回、2日間の Japan Festa 2024を企画・開催しました。このうち、月例セミナー3回、Japan Festaの1日目は会場開催しました。会場開催は、オンライン同時・オンデマンド配信を基本としましたが、8月月例セミナーのみ、その内容から会場限定で実施しました。受講いただいた方の満足度は、月例セミナー6回の平均で92.6%、Japan Festaは99.0%でした。



PMI Japan Festa 2024 2日目の運営スタッフ

SDGs スタートアップ研究会

多くの法人がSDGsの達成のための事業を実際に行う際のプロジェクトの立ち上げ・推進がうまく行かない課題を解決するために、SDGsスタートアップ方法論の普及促進とプロジェクトマネジメント支援を行うものです。

私たちは内閣府『地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム』にSDGsスタートアップ研究分科会を立ち上げ、SDGs事業の効果的な立ち上げ推進を支援しています。

2024年もSDGsスタートアップ研修ワークショップを3回開催、法人におけるSDGs事業のプロジェクトマネジメントを支援、春と秋に大規模SDGsスタートアップセミナーを開催、日本フォーラム Excellent Speaker 受賞など多くの成果をあげています。

関西ブランチ所属支部会員による部会活動

関西ブランチ 運営委員会

関西ブランチの5つの研究会と共にブランチの運営を行っています。関西地区でのサービスを充実させるため、関西セミナーなどの会員向けイベントの提供や、成果発表会を通じた研究会同士の交流を促進しています。

月に一度、関西ブランチの研究会代表と運営委員が集まり、関西ブランチの運営について企画・検討を行っています。2024年の関西セミナーでは、「Web3.0とブロックチェーン技術の可能性」や「組織を動かすリーダーシップ」をテーマに講師を招請し、皆さまに知識習得の機会を提供しました。5つの研究会による成果発表会は、リアル会場とオンラインの併用で開催し、各研究会による個性豊かな発表に加え関西圏以外からの参加者も増え、盛り上がりを見せています。



関西セミナーでの集合写真

関西ブランチ プロジェクトマネジメント実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上とプロジェクトマネジャーの実践力向上を目的としています。2023年度からターゲット層を「ジュニアからシニアまで」に拡大しました。2024年度は学生向けPM教育プログラムの改善を目標に活動しました。

日本フォーラム2024では2件の発表を行いました。1件目は「学生向けPM教育ワークショップの実践報告」と題しアカデミックトラックで発表しました。2件目は、「ゼロからのリスクリングにより、DX時代のPMの実践的スキルであるパワースキルの向上への挑戦!!!」です。

2024年4月に川崎医療福祉大学にて、「PM実践ワークショップ」を開催し、2023年のプログラムの課題を改善す



川崎医療福祉大学 PM実践ワークショップ(グループワーク風景)

ることができました。また、6月はオンライン、9月はオンサイトで「ケースで学ぶPM実践ワークショップ」を2回実施し、いずれも高評価を得ました。

関西ブランチ 医療プロジェクトマネジメント研究会

2024年度は日本フォーラムにおいて医療機器開発におけるPM/PgMのあり方を発表することを目標に活動しました。また、以前からの継続的な取り組みとして、毎月定例会を実施し、各人が医療に関連したPM周辺トピックを持ち込み、発表、ディスカッションを行いました。

医療機器開発をプログラムマネジメントとして捉え、医療機器新規参入企業による人工関節開発をケーススタディーとして思考実験を行いました。その結果から、プログラムマネジメントによるプロダクト・ライフサイクル管理や世代ごとのプロジェクトマネジメント手法の使い分けが有用であることを明らかにし日本フォーラムで発表しました。また、2024年も定例会の中で医療PMトピックに関するディスカッションを行うことで知識を深めました。

関西ブランチ IT上流工程研究会

ITプロジェクトにおける上流工程での実践事例の共有・議論を行い、そこで得た知見を広く発信・展開することでIT業界全体の底上げに貢献することを目的に、「ビジネスリレーションシップマネジメントの研究」、「アーキテクチャとPMとBAの融合の研究」、「DA(Disciplined agile)の実践」をテーマに活動しました。

関西ブランチ主催あかねサロンで「デジタル変革をリードする!プロジェクトマネジャーのためのエンタープライズアーキテクチャ実践セミナー」を開催し、定員を上回る申し込みをいただきました。アンケート結果からは96.1%が高評価を示し、続編を求める声も多数寄せられました。さらに、12月の関西成果発表会でも同テーマの内容を紹介し、学びと交流の場を一層活性化することが出来ました。今後もプロジェクトマネジャーがDXを成功に導くための知見を深め、実践に活かせる機会を提供していきます。

関西ブランチ 定量的PM事例研究会

2024年度は参加者のプロジェクトや関心事を元に毎月事例発表を行い、互いの経験から学び合うことを目標に活動しました。近年は定量的なマネジメントに加え、人に関するテーマを中心に研究活動を行っています。

月次合同定例会では他部会のゲスト講演や参加者の皆さんから多くの事例を紹介いただき、多様な価値観を持ったメンバーとの交流を通じて学びを深めることができました。また、日本フォーラムでは、「チェンジリーダーを導く変革の勘所」と題して発表し、年末の関西ブランチ成果発表会では、「PMO設立の道のり — 意思決定のための Status Monitoring自動化と分析の提供」を発表するなど、人とモノ(方法論)の両面で研究活動を展開しています。

関西ランチ プロジェクトマネジメント創生研究会

毎月第3土曜日の定例会では、「DX時代のPMコンピテンシー/EQの探求と教育方法」、「起承転結人材モデル」、「生成AI」について議論しました。また、PM創生研GPTを活用し、AIとPMの対話を進めるとともに、起承転結ワークショップを通じてPMヘリスクリングのきっかけを提供しました。日本フォーラムでは、起承転結人材モデルを説明し、12月の関西成果発表会ではライブで「セルフ・エフィカシー」について対話を重ね、本質に迫りました。

合宿、定例会の様子



中部ランチ所属支部会員による部会活動

中部ランチ運営委員会

中部ランチは運営委員会、PMサロン、地域ソーシャルマネジメント研究会の3つの部会で構成されており、運営委員会はその部会間の運営支援に加え、地域セミナーなどの支部内活動との連携を進めてきました。

2024年度は月1回のペースで定例会を開催し各支部の状況確認と相互のアドバイスなどを進めてきました。毎年恒例の地域セミナーも11月に開催し、アジャイル開発の成功への道筋やマネジメントにおける常識のショートケース・メソッドについてお伝えしました。中部ランチは2025年に設立10周年を迎え6月には記念イベントも計画しています。引き続き、中部地域を起点とした高い価値を実現できる共創の場を提供していきます。



2024年11月開催 地域セミナー

中部ランチ PM サロン/セミナー

PMサロン/セミナーのミッションは、PMに関する情報共有の場を提供し、PM人材を育成および発掘することによってPM活動を支援することです。2024年度はセミナーを開催し、PM人材を掘り起こすことを目標に活動しました。

『マネジメントサロン100名構想』では、中部地区でマネジメント活動を行う団体や個人をつなぎ、「やりたいこと、やれること、やらなければならないこと」を見出す価値を探索してきました。ビジネスアナリシスやプロジェクトマネジメントを活用し、その価値を検討する中で、特にビジネスアナリシス未経験の参加者にとって貴重な体験の場となりました。また、毎月第一水曜日にリモート定例会を継続し、学びと交流の機会を提供し続けています。

中部ランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会

当研究会は社会的課題の解決に向け、プロジェクトマネジメントがどのように貢献できるかを考え実践する研究会です。2024年度は前年度に引き続き中部地域の企業/団体に向けたPM講座の展開を目標に活動しました。

当研究会では以前、豊田市を支援して地域活動の活性化に貢献しました。そのときのノウハウを活用して中部地域の企業/団体にさらに貢献できないか検討を行い、プロジェクトマネジメント講座の立ち上げを行うことに決定しました。2024年度は東海地域の企業に対してプロジェクトマネジメント初級講座の立ち上げを支援しました。企業担当者の意見を伺いながら、講座資料の作成に協力しました。

法人スポンサー社員による活動

法人スポンサー 人材育成スタディ・グループ

一流のプロジェクト・マネジャーに必要な人間力について研究を継続しています。2024年度は人間力カルタのプロトタイプ版を作成し、試行と改良を重ねて品質を高めることを目標に活動しました。

人間力カルタの読み札・取り札の文章、および絵札のイラストイメージを作成し、メンバー内での一次レビューの上でプロトタイプ版の試行まで実施できました。最終的な成果物のイメージが徐々に形成できています。文章の検討は特に難航しましたが、アジャイル手法を取り入れることで柔軟に改善を図っています。今後は、カルタをさらに進化させ、活用ガイドを添えた初版リリースを目指して活動します。



年に1度開催している合宿

法人スポンサー 若手PM 育成スタディ・グループ

当グループの第4テーマである「これからの若手PM育成」は、過去の活動における3つの成果物を順次見直すことから始めるとしています。2024年は、第1テーマ「PM候補者選定ポイント」の見直し完了と第2テーマ「PMのモチベーション維持・向上方法」の着手を目標に活動しました。

コミュニティによる活動

女性コミュニティ

女性PMやその候補であるリーダーの皆さまの活躍とスキルアップを支援し、交流を促進する活動を行っています。2024年度は恒例の定例会や女性PMインタビュー記事作成に留まらず、PM教育動画の製作や外部講師を招いた防災×PMセミナーも主催し、女性PM同士のつながりの強化や当コミュニティ活動の対外アピールを目標に活動しました。

月に1回の定例会や季節毎のイベントでは、プロマネスキルと女性キャリアの2軸を主なテーマとして扱い、多様なバックグラウンドを有するメンバーで議論やシェアを行いました。さらに、SDGsへの貢献として「防災」に注目し、日本防災士会から女性防災士をお招きして、防災とプロジェクトマネジメントをテーマにセミナーやパネルディスカッションを行いました。

また、PM教育動画の第2弾を制作し、プロジェクトマネジメントの普及に貢献しました。女性PMインタビューも継続して行い、さまざまな経験や転機、将来に向けた思いを記

2024年は第1テーマ「PM候補者選定ポイント」の見直しが完了したため、その成果をフォーラムで発表するとともに、「これからの時代におけるPM選任のためのPM特性表」を公開しました。12月の法人スポンサー連絡会ではその活動を報告し、参加者の皆さまから大きな関心を寄せていただきました。

また、第2テーマ「PMのモチベーション維持・向上方法」の見直しにも着手し、見直し方針の確認までSG内で合意出来ました。

2025年度は第2テーマの見直しを進め、完成形イメージが描けるようにしたいと考えています。

法人スポンサー ケースメソッド・スタディ・グループ

PMやプロジェクトメンバーの育成、スキルアップを効率的に行うためにケースメソッド型の学習をどう導入すべきか、またその効果を最大化するためのケース作成や学習時のファシリテーションの方法論を研究しました。

PM やプロジェクトメンバー育成手法としてのケースメソッド学習の有用性や、実践時の留意事項、特にファシリテーションの勘所に関して日本フォーラム 2024 で報告し優秀賞をいただきました。また、これまでにスタディグループ内で議論したケースメソッド学習のノウハウや心得、研修として立ち上げる時の留意事項などを「ケースメソッド実践ガイド」としてまとめ上げて日本支部のサイト上で公開しています。

事と動画で掲載しました。

これらの活発な活動について日経Womenから取材を受ける機会もいただき、2024年5月号に掲載いただきました。
<https://www.pmijapan-women.net/>



今年もさまざまなイベント・セミナーを開催しました！

AI@Work コミュニティ

AIの適用・活用を探究し、Conference/SME Discussion/日本フォーラムでの発信や成果共有、PMI Global Summit 2024での発表を通じて、日本支部のプレゼンス向上を図る。

これまでに国内外で積極的に情報を共有・発信し、PM×AI領域における知見の普及や対外的な活動を行ってきましたが、「AI@Work」創設以来5年間の活動成果を総括し、2024年9月に米国ロサンゼルスで開催されたPMI Global Summit 2024にて講演し好評を博しました。メンバー登録者数は271名(2025/1/31現在)に上り、アクティブメンバー40～80名で活動しています。2024年に開催した全9回のイベントでは毎回100名以上が参加し、日本フォーラム2024では優秀講演として2件選出される成果も上げています。

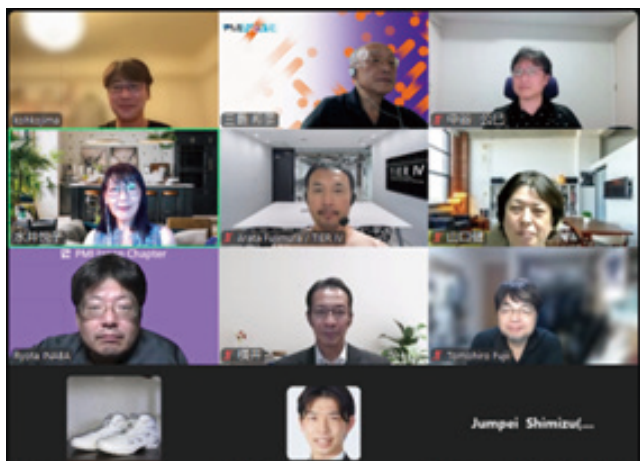


AI@WorkメンバーとPMI CEO Pierre Le Manh

DA コミュニティ

DA(ディシプリンド・アジャイル)の適用方法、活用方法の学習・研究を目的としてWG1: Choose YourWoWの読書会、WG2: 適用研究、WG3: エンタープライズ適用研究の各WGに分かれて活動しました。

ディシプリンド・アジャイルという名前からアジャイル開発技法のひとつと思われる方も多いですが、実はウォーターフォールやアジャイルといった技法に関わらずさまざまな組織に適用可能な手段がDAです。DAに初めて触れる方は主にWG1で基礎的な学習を行い、DAとはどのようなものか理解を深めました。WG2では実務現場の課題や悩みに対し



月例会の様子

てDAを活用してどのように改善していくのかの議論を重ねました。WG3ではDAの大きな特徴ともいえる組織全体(エンタープライズ)の領域の定義のうちいくつかについて調査・議論を行ってきました。

活動に参加された皆さんは所属組織・チームにおいて、DAを活用して少しずつでも改善していく方法を理解いただけたのではないかと思います。

建設コミュニティ

PMBOK®ガイド建設拡張版を基とした討議を継続し、その中で「学ぶ」と「つながる」のバランスを取りつつ活動を継続しました。内容が硬くなりがちなので、会の雰囲気を開放的なものとすることに留意しました。

月例会の開催回数は11回(月次開催、各回1時間30分、全てネット、年末のみ中止)、延べ参加者総数は124名、1回あたりの平均参加者数は11.3名でした。

討議終了章数は8章(拡張版全12章、2023年に2章終了、合わせてこれまで10章終了)となりました。

経験豊富な専門家が集まり、活発な議論が展開されました。一方、他業種から建設・不動産業界に移った方、経験年数が浅い方から質問がなされ、他メンバーが応える展開もありました。後半30分の「つながる」タイムでは、参加メンバーの経験に基づくエピソードを中心に、さまざまな意見交換ができ、メンバーの気づきや発見に繋がっています。

未来創造コミュニティ

コミュニティ・メンバー間の実践的な学びや気づきを生むことを目標に、PMBOK®ガイド第7版を起点としたディスカッションを行っています。

PMBOK®ガイド第7版の8つのパフォーマンス領域を軸にディスカッションを毎月実施しました。具体的には、一つひとつのパフォーマンス領域を10分ほどで概略的に把握しながら、現場での悩みや問いを設定し、周囲の異なる業種・業界・立場のメンバと議論しました。PMBOK®ガイドをよく知らない人はその全体像を把握でき、すでに知っている人も普段はなかなか知ることのできない実践知を身に着けることができ、よりプロジェクトマネジメントの実践力が高まったと感じています。

地域コミュニティ

国内の各地域でPM関連の活動を行うもので、地域サービス委員会と連携し、各地域活動の情報共有を行っています。2024年度は地域内での定例会(勉強会)、地域セミナーの企画・開催を目標として活動しました。

4つのWG(地域)を中心に目標通り活動を行うことができました。

地域セミナーは春先から企画を進めて9月～11月にかけて各WGで実施し、受講者も前年より順調に増やせました。定例会(勉強会)も各WGでオンラインにて着実に実施し、

新たな勉強会テーマへの取組、セミナー以外での対面企画案も話題に上っています。特に広島WGでは、県財務局との共催WSも実施しました。コミュニティへの参加者も徐々に増やすことができています。



地域セミナー(九州WG)の様子

COLUMN 地域コミュニティ 東海・富士WG 北川 活宏



以前、単身赴任で静岡市に住んでいた縁もあり、福井から東海・富士WGに参加させていただいています。これまで地方から活動に参加するのは難しいことでしたが、リモート会議がニューノーマルな時代になり、どこにいてもさまざまな地域の活動に参加できることは、本当に素晴らしい時代になったと実感しています。静岡のお客様とは今でも交流させていただいており、公私ともにお世話になった地域です。地方からではありますが、少しでも静岡に恩返しができるように活動していきたいと思っています。

行政コミュニティ

「行政や行政を通じた地域の取り組みの価値創出に貢献することを目指し、行政と民間の交流促進、プロジェクトマネジメントツールの作成、事例の収集、行政向けPR活動などを目標として活動しました。

「行政と民間の交流促進」では、定例会参加者数の平均20名以上を達成しました。

「プロジェクトマネジメントツールの作成」では、一般公開したものではありませんが、検討/作成中ツール数が15件に上っています。「事例の収集」では、レポートを5件作成しました。また、「PR活動」としてNOTEを立ち上げ、2024年末までにアクセス実績900件以上になっています。

シニアコミュニティ

シニアが主体的に生きるための「社会」、「コミュニティ」を醸成し、日本の社会課題の解決に結びつけるための「語り場」や「実践の場」＝サロンづくりを目指しました。

当コミュニティは2024年7月にキックオフした新しい組織です。①ライフデザイン、②リスクリング、③社会貢献チャレンジの3つのサロンを設け、それぞれ3ヶ月に1度、お話を開催しました。また、サロン横断の全体お話を毎月1回実施しました。成果物は求めない予定でしたが、熱心なメンバーの方々が奮闘し、各人のキャリアジャーニーマップ、SWOT分析、スキルマップなどを作成し、活発な意見交換を行いました。

外部講師招請によるもの

月例セミナー

月例セミナーはセミナー・プログラムのメンバーが講師選定・折衝・準備・当日運営の全てを務めるもので、現場PMの方々が興味を持つ旬のテーマ・講師を選定しています。コロナ禍の2020年4月以降は全て完全リモートで実施していましたが、2024年からはリモート配信も担保しつつ対面でのセミナーを復活しました。

2024年度の計6回の全てに参加された「皆勤賞」受賞者は11人にも上り、このような『月例ファン』の方々には、オープンバッジのほか翌年の月例セミナー1回の無料参加権を差し上げています。

2020年度から採り入れているグラフィック・レコーディングは「振り返りに役立つ」との評価のほか、講師ご自身にも大変喜んでいただいています。各回のアンケートによるセミナーへの平均満足度は毎回93%と2024年も高い評価をいただきました。

2024年の月例セミナー

講演月	テーマ	講演者	所属
1 月 度	世界におけるESGマネジメントの潮流	キーリー アレク サンダー 竜太 氏	九州大学工学研究院 准教授
2 月 度	『普通』を問い直すことの重要性	勝井 恵子 氏	(国研) 日本医療研究 開発機構 研究公正・ 社会共創課 課長代理
4 月 度	組織とケアを哲学する	近内 悠太 氏	教育者・哲学研究者
6 月 度	脳と心をより良く使う技術	西原 大貴 氏	Mononofu llc Owner, Principal Coach
8 月 度	アーツ×ダイアログ ～アート鑑賞でビジネス 脳を鍛える～	三ツ木 紀英 氏	NPO 法人 芸術資源開 発機構 代表理事
12 月 度	技術者倫理教育で実現 する組織の価値向上	鈴木 敬一 氏	鈴木技術士事務所 代表

グラフィック・レコーディングの例はこちら

アジャイル研修

2024年度のアジャイル研修は Zoom を使用して6月と10月に「アジャイル基礎」をリモート開催しました。アジャイルプロジェクト成功の鍵となる「アジャイルの基本的な考え方を正しく理解すること」に焦点を当てています。

また、アジャイルプロジェクトで採用例の多いスクラムのプロセスをワークショップで体験し、スクラムの基礎も理解していただけるようにしています。コース内での疑問だけでなく、受講者が日頃から持っている疑問・質問にもお答えできるようQ&Aタイムを十分に取っており好評をいただいています。今後も全国から受講いただけるようリモート開催を継続します。

プログラムマネジメント実践ワークショップ

2024年度はZoomを使用して4月と10月にリモート開催しました。本ワークショップでは、プロジェクト現場におけるプログラム・レベルの課題をどう解決し、どのように対処すべきか考えていただく機会を提供しています。

グループディスカッションを通してさまざまな業界、キャリアの方々と共通の悩み事や、異なる視点での考え方を語り合っただき、受講者からは、「日頃感じていた現場での課題に対して、プログラムマネジメントの視点で取り組む必要があることを理解できた」などのコメントをいただきました。

2024年度はPMIから新しくリリースされた『プログラムマネジメント標準第5版』の改訂ポイントについての解説も含めています。

ポートフォリオマネジメント実践ワークショップ

2024年11月に新コース「ポートフォリオマネジメント実践ワークショップ」をオンラインで開催しました。「プロジェクトがビジネスを牽引する時代」には「ポートフォリオマネジメント」が極めて重要です。経営戦略や経営計画に整合したプロジェクトの取捨選択や優先順位付けなどの具体的な手法、経営戦略や経営計画にそったプロジェクトの目標設定など、ワークショップを通して実践的なスキルを磨いていただきました。

受講者からは「整理された体系的な講義と実践的なワークショップで理解が深まった」などのコメントいただきました。2025年以降も継続開催予定です。

会議ファシリテーション基礎セミナー

ファシリテーションは、近年注目されるリーダーに求められる必須スキルです。パンデミックを経て確立された新しい日常では、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッドワークが普及し、これまで以上に効果的な会議運営のスキルが重要視されています。

本セミナーは、話が長い人や話さない人への対応、議論が発散しすぎる、あるいは広がらない場合の進行方法、対立の解消や時間管理のコツなど、ハイブリッドワーク環境における具体的な課題に対処する方法を学ぶものです。オンライン会議だけでなく、ハイブリッドワーク環境でも役立つ技術を通じて、新しい働き方に即したコミュニケーション力とリーダーシップの向上を目指し、講義とワークショップを組み合わせたオンライン形式で開催しました。

SDGs スタートアップセミナー

SDGs スタートアップ研究会は毎年春と秋に大規模セミナーを開催しています。

2024年は3月16日に「SDGsをビジネスとして創り出すヒント」を、9月14日に「地方創生へのサステナブルな向き合い方・情熱を行動につなげるには」をテーマに開催しました。

春はSDGs スタートアップ研究分科会の5年間の歩みを振り返り、持続可能な開発を実現するための課題と今後の取り組みについて、研究会メンバーによる講演を行いました。また、秋にはゲスト講演者として、株式会社ディ・シー・ティ代表取締役社長の下竹 重則氏をお招きし、「融資60万円からの起業ストーリー ～地域課題と向き合い続けた20年間の歩み～」と題して、SDGs 実践事例をご紹介いただきました。

PMoA セミナー

2024年9月25日にPMoA セミナー「アートって、プロジェクトなの？ ～プロジェクト実践者に聞く!」を開催しました。当日は渋谷の会場に約50名の方にご来場いただき、交流会を含め大いに盛り上がりました。キーノート・スピーチでは、NINE LLP. 藤原氏よりアート・プロジェクトの歴史と面白さについてお話をいただきました。実践事例紹介では、新感覚アートコンペティション、クリエイティブ拠点の創出、地域活性化へのアーティスト活用、地域課題の解決に貢献する芸術祭



理事・部会メンバーが講師を務めるもの

標準セミナー

不確実性が高まる社会の中で、プロジェクト・マネジャーに求められるスキルと知識は、ますます高度化していきます。日本支部では、次代を担うプロジェクト・マネジャー向けに、先人の教えが凝縮されたプロジェクトマネジメント標準類を学習する機会を『標準セミナー』として定期的に開催しています。

セミナーでは、PMI 標準類の内容を単に説明するだけでなく、ときにはマンガも交えて、いかに日本組織の実務に適用するかなどのアドバイスなども加え、経験豊富な講師陣がその専門分野における知識と経験を余すところなくみなさんに語りかけます。

このような標準セミナーは、実務に直結する知識とスキルを体系的に学べる場として、2021年から累計5,000名超の方が受講し、高い評価をいただいています。

【2024年1月開催：ポートフォリオマネジメント】

・講師：尾崎 能久、アンリ近藤

近年、企業・組織はさまざまな変化に直面し、その変化に対応すべく多くのプロジェクトを立ち上げて実行しています。ただ、ヒト・モノ・カネには限りがあり、プロジェクトは複雑さや不確実性が増しており、貴重なリソースを投入しても必ずしも成功するわけではありません。そこでプロジェクトの取捨選択を体系的なアプローチで『何を行わないか』を決

など、計5組のアート・プロジェクト実践事例をご担当者の方からお話いただきました。最後のクロストークではプロジェクトマネジメント視点でのディスカッションも行いました。

未来創造セミナー

未来創造セミナーは、若年層における PMI 活動への興味関心・認知度向上を図ることを目的に、社会的影響力のある起業家や社会活動家、実務家を講師に迎えセミナーを行っています。

2024年は、ターゲット層であるZ世代、ミレニウム世代の嗜好や関心事を踏まえ、世の中に新たな価値を提供し、社会的影響力がある講師を迎え無料セミナーを3回開催し好評を博しました。

6月6日 「ひとり広報、予算0円での戦略PR」 株式会社Hooome北川史歩氏

8月25日 「志の醸成とキャリアの築き方」 グロービス経営大学院副学長 田久保善彦氏

12月18日 「あなたのキャリアを切り開くプロジェクトマネジメント力とは」 PMI日本支部理事ほか



める、ポートフォリオマネジメントの考え方が極めて重要となっています。

【2024年2月開催：リスク・マネジメント】

・講師：芳賀 和郎、井寺 寿利



リスク・マネジメントはすべての組織活動において不可欠な要素であり、実務で実施されている方も多いと思います。

リスク・マネジメント研究会では、『ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトにおけるリスク・マネジメント標準』の内容を紹介しながら、ポートフォリオ、プログラム、プロジェクト間でのリスク・マネジメントの連携の必要性や新PMBOK®ガイド第6版/第7版との関係を整理しました。

【2024年3月開催：プロセス群：実務ガイド】
・講師：中谷 公巳、金子 啓一郎



プロジェクトマネジメントの知識とスキルを深めるための重要な資料「プロセス群：実務ガイド」の日本語版が新たに提供されました。「プロセス群：実務ガイド」は、PMBOK®ガイド第6版のプロセスアプローチを継承しており、5つのプロセス群と49のプロセスについて詳しく解説しています。それぞれのプロセスに必要な「インプット」、「ツールと技法」、「アウトプット」も網羅しており、プロジェクトマネジメントの実践において役立つ知識と理解を深めることができます。

【2024年4月開催：OPM (Organizational Project Management)】
・講師：講師：池田 修一



プロジェクトマネジメントで発生する問題は、プロジェクトマネジメントそのものだけでなく、プロジェクト選定、リソース不足など、組織に起因するものも多くあります。組織のプロジェクトマネジメントは、実務慣行とプロセスを適用し、整合性をとることにより、プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメントを用いて、組織の戦略目標を達成するための最適な支援を提供します。

【2024年9月開催：実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド】
・講師：仲宗根 朝哉



『実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド』が8年ぶりに更新され、2023年12月に英語版 Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide – Second Edition が発行されました。新しいガイドではビジネスアナリシス活動について、5つのドメインと、それぞれ3つのキープラクティス、5つのマインドセットにまとめられています。ビジネスアナリシスをより日々の活動に役立て、問題解決にビジネスアナリシスを活用していただくことを目的に更新された概要を説明しました。

【2024年11月開催：PMCDF (Project Manager Competency Development) Framework】
・講師：石井 友美子、平井 文裕、福田 伊津子、金子 啓一郎



コンピテンシーとは「社会的な責任、義務を自覚した上での職務遂行能力」であり、PMCDFはプロジェクトをリードする人材のコンピテンシーを定義、評価、開発するための枠組みや普遍的な行動規範を提示しています。第3版PMCDFではプロジェクト・マネジャーだけでなく、ポートフォリオ・マネジャー、プログラム・マネジャーを含む垂直方向に内容が拡張され、現代に求められるコンピテンシーを立体的に考えることができるようになりました。

PMBOK セミナー 2024

2023年度に開講し会場開催方式で3回実施した本セミナーは、2024年度も継続して5月、11月の2回開催しました。2024年度も引き続き、講義だけでなくグループワークによるワークショップを加えて受講者の反応が見えやすい形で実施しました。

PMBOK®ガイド第7版ではこれまでのプロセスベースのものから原理原則ベースに変更され、やや抽象的な記述となっています。第6版までのようなハウツーが記載されているわけではないため、一度書籍を読んだり講義を聴いたりだけではなかなか理解しづらくなっています。

本セミナーは、多種多様な属性を持つ受講者同士が対話を通じてより深く理解してもらえるようプログラムしています。グループワークにより講義の内容をご自身の経験に照らし合わせて他のメンバーと対話していくことで、講義の内容をより深く考えるきっかけにいただくことが出来るため、大変好評価をいただいています。

日本支部 Web サイトの「PMBOK® セミナー・プログラム」のページにもセミナーの実施報告などを掲載していますので、こちらも併せてご覧ください。



戦略的 PMO 実践ワークショップ

PMO 研究会では毎年「戦略的 PMO 実践ワークショップ」を開催していますが、2024年度は1月27日に「変化に強い PMO を目指して」をテーマにワークショップを Zoom でリモート開催しました。

当ワークショップへの関心は非常に高く、参加受付開始から3日間で募集定員に達しました。当日は「DXを推進する組織における PMO の在り方」、「組織へのアジャイル導入と PMO の在り方」、「スピーディーな価値実現に貢献する製造業 PMO」の3つのグループに分かれて PMO のあるべき姿や課題についてディスカッションを行いました。

なお2024年1月から書籍「戦略的 PMO ―新しいプロジェクトマネジメント経営―」が電子版としてオーム社からリリースされています。

PM 実践ワークショップ 2024 (あかね実践工房)

PM 実践ワークショップは、プロジェクトの実践事例から作成された短いケースを疑似体験し、ケースから抽出した問題点をグループで協議し解決策を作成することにより、プロジェクト・マネジャーの実践力向上を図る参加型のワークショップです。本ワークショップでは、状況把握力、課題認識力、リスク特定力などの PM 実践力の向上を目指しています。

あかね実践工房では、PM 実践ワークショップを2010年より通算26回実施してきました。2021年からオンラインでのワークショップを実施し、2024年度はオンラインと京都にてオンサイト(対面)で開催しました。参加者アンケートでは満足度100%の高評価を6回連続で得ることができました。

2022年より実プロジェクト経験者ヘインタビューを行うことにより、ショートケースを作成しています。今回のテーマは「公共システムプロジェクトにおけるステークホルダーマネジメント」で、関西 brunch の会員からインタビューした実際の事例をもとに新規作成しました。

【全体の流れ】

実践的に理解を深めていただくため、ワークショップ方式で進めます。今回のワークショップの主な流れは以下の通りです。

- (1) セミナー全体についての説明
セミナー全体の趣旨や進め方、ケースメソッドに関する基本的な考え方を説明します。
- (2) ショートケースの紹介と質疑応答
実践事例に基づくショートケースの紹介を講師が行います。
- (3) 個人検討
個人にてショートケースの中から懸念事項を抽出し、対策案を検討します。
- (4) チーム検討と発表
個人で検討した懸念事項と対策案を持ち寄り、チームでまとめて発表します。講師によるサポートも随時行います。



ワークショップ後の記念写真

(5) 振り返り

全体の振り返りを行います。その中で重要な視点や持ち帰っていただきたい学びを整理します。

【感想】

今回はチームのファシリテーションを参加者に担当していただき、スタッフはチームへの支援を行いました。チーム支援に関しての質問をしたところ、経験に基づく知見・アドバイスを適切なタイミングでもらえたと好評価をいただきました。

関西成果発表会

関西ランチでは、毎年12月に関西ランチ所属メンバーが一堂に会し、各研究会での年間の活動成果を発表する場として、成果発表会を開催しています。2024年は、首都圏在住の関西ランチメンバーが増えていることを踏まえ、昨年に続き、新大阪駅前のニッセイ情報テクノロジー社様のセミナー会場をオンラインで繋ぎハイブリッド運営にて開催しました。

成果発表会は、普段接する機会の少ない他の研究会の発表を聴講できる貴重な機会であると同時に、発表者としても価値観・文化の異なる他の研究会や一般参加者から広く意見・質問をいただくことで、互いに新たな気付きや価値観の醸成を図る議論の場になっています。また、関西地域の活動を全国にお知らせし、いずれ活動に参画いただけるよう支部会員以外の一般の方々にも広く告知し、互いの学びの場として関西ランチが今後更に多くの方々に支持され発展していくことを狙いとしています。

2024年の参加申込者は52名(内35名がオンラインでの聴講を申込)でした。午後半日の短い時間でしたが、約1年ぶりのランチメンバーの対面の場となり、各研究会発表では、活発な質疑や意見が交わされ、最後に山本理事から講演を総括して講評いただきました。

また、講演後は一般参加の方々も交えて交流会を開催し、忘年会も兼ねたとても有意義なイベントになりました。

<発表テーマと講演者>

「アジャイルなコミュニティ活動の実践：PM創生研 Live」PM創生研

「プロジェクトマネジャーのためのエンタープライズアーキテクチャ」IT上流研：松井 淳氏

「社内コミュニケーション活性化の取り組み」定量的PM研：橋野 秀紀氏

「ショートケース作成プロセスのこれまでとこれから ～インタビューから生成AIの活用まで～」PM実践研：岡田 知之氏/大西 徹氏

「構造化思考でプロジェクトを制する：複雑なプロジェクトを解きほぐす新たな視点の提示」医療PM研：山口 雅和氏

地域セミナー

地域セミナーは地域サービス委員会が主催し首都圏以外で開催しており、会員のほか一般の方でも無料で参加でき、日本支部や当該地域における活動内容を知ることができるものです。

2022年度以降は会場開催を再開しています。

セミナーの内容は、2年前に立てた方針「地域内での自主運営、地域性のある独自テーマ」を継続し、オンライン配信は実施せず、会場で参加者の方々と深い交流ができるスタイルをとっています。事前に第1部のテーマを下表のように3つ設定しておき、第2部に繋げやすいものを各地域にて1つ選択いただくものとなりました。なお、日本支部から講師を派遣する形式は前年までと同じです。

地域セミナー 第1部共通テーマ概要

テーマ名	内容・講師
Well-being	良好(Well)な状態(being)について、基礎概念からプロジェクトマネジメントにおける効用を解説。
アジャイル開発のプロジェクトマネジメント：成功への道筋	ウォーターフォール型とアジャイル型の開発手法の違いを比較し、アジャイル開発の基本的な概念と導入の必要性を解説。
ステークホルダー・エンゲージメントとは ～心を動かすエンゲージメントを活用してみよう～	業務遂行時の良好な人間関係構築をいかに行うか、本支部で実施したアンケート結果や研究会員の事例からそのヒントを心理的アプローチと共に紹介。

第2部では、各地域の特色や運営の独自性を出せる形とし、ワークショップを中心に地域担当者にて教材、シナリオ等を作成・運営しました。第2部の概要を右頁表に示します。

会場開催運営ノウハウの地域間共有(地域相互での応援)やネット広告等、新たな取組も行い、受講者を順調に増やすことができました。ワークショップ形式、講師との自由闊達なディスカッションは参加者から変わらず高い支持を得ており、このセミナーをきっかけに地域コミュニティの参加へと繋がっています。

開催運営側も自信を持って準備に臨めており、全体司会進行、第2部の講師役などでも活躍いただきました。セミ



東海富士地域セミナー

ナー終了後は講師、運営メンバー、受講者有志を交えた親睦会も恒例となっており、コミュニケーションをより深めています。

地域セミナー 第2部の概要

ランチ・地域名	セミナー内容	開催日/参加者数
北海道	テーマ：Well-being 第1部【講演】 「Well-beingを中心としたプロジェクトマネジメント」(講師：茨木 浩司氏 広島WG) 第2部【ワークショップ】 「Well-beingカードを使ったチーム・ビルディング」	9月21日(土)/20人
東海・富士	テーマ：Well-being 第1部【講演】 「Well-beingを中心としたプロジェクトマネジメント」(講師：茨木浩司氏 広島WG) 第2部【ワークショップ】 「Well-beingカードを使ったチーム・ビルディング」	10月26日(土)/15人
中部(ランチ)	テーマ：アジャイル開発のプロジェクトマネジメント：成功への道筋 第1部【講演】 「アジャイル開発のプロジェクトマネジメント：成功への道筋」(講師：伊熊昭等氏 アジャイル研究会) 第2部【講演】 「ショートケース・メソッド ～マネジメントにおける常識～」(講師：中村康司氏 中部ランチ)	11月30日(土)/37人
関西(ランチ)	テーマ：PMコンピテンシーを磨きましよう 第1部【講演】 「EQ向上のための実践事例について」(講師：PMタレントコンピテンシー研究会 勝連氏) 第2部【ワークショップ】 「起承転結人材ワークショップ」	11月30日(土)/29人
中国@広島	テーマ：中国地区の参加者の皆さんに最新のPM情報をお届けする 第1部【講演】 「ステークホルダー・エンゲージメントとは ～心を動かすエンゲージメントを活用してみよう～」(講師：河南美章氏 ステークホルダー・エンゲージメント研究会) 第2部【ワークショップ】 「システム×デザイン思考ワークショップ」	10月12日(土)/14人
九州	テーマ：現代社会に求められる変革とアジリティ 第1部【講演】 「アジャイル開発のプロジェクトマネジメント：成功への道筋」(講師：伊熊昭等氏 アジャイル研究会) 第2部【講演】 「創業者精神を載せて、未来へ。福岡運輸物流DXの取組み」(講師：生津瑠美氏 福岡運輸株式会社業務推進部システム課長)	11月4日(月・祝)/20人



ワークショップの様子

ホームページ

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体です。

日本支部会員制度や研究会やコミュニティ活動、世界のプロジェクトマネジメント動向の紹介、アニュアルレポートやニューズレターの掲載、各種セミナーやイベントの告知や開催後の報告、日本支部会員・法人スポンサー組織向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページや動画でプロジェクトマネジメントを詳述するYouTubeページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。

なお、支部会員の皆さまには支部会員専用ページから『PMBOK®ガイド第7版』および『プロセス群：実務ガイド』の日本語版PDFを無料ダウンロードできるサービスや、PMI®標準の解説動画などを提供しています。



ニューズレター

ニューズレターは、2024年に創刊100号を迎えました。日本支部のイベント報告のほか、理事紹介、部会活動紹介、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ(PMI関連有資格者数、日本支部会員数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他)などを、pdf雑誌形式で掲載しているもので、春夏秋冬の季刊となっています。

日本フォーラム、Japan Festaの情報や、30にも上る部会活動・法人スポンサースタディー・グループの活動状況など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。



メールマガジン (PMIJ 通信、グローバルトレンド)

日本支部のメールマガジンは、約1万6千人(PMP®資格保有者や本部・支部会員など、日本支部からのメールマガジンの

配信を承諾いただいた方)および、110社にのぼる法人スポンサーの窓口ご担当の方々に対して情報を配信するサービスです。HTML形式にも対応しており、見やすく読みやすい内容となっています。

各種セミナーやイベントの開催、新刊書籍の割引販売、PMP試験要領の変更、翻訳記事掲載など、さまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。配信頻度は、基本的に1回/月、研修・セミナーなど個別の案内は数回/週のペースで、日本支部会員、プロジェクトマネジャー、法人スポンサー社員の方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。

また、2021年9月に開始した「PMIJ 発 グローバルトレンド」は、PMI本部のさまざまなサイトやPMI、プロジェクトに関係する海外サイトを紹介するサービスで、毎月10日にお送りしており好評をいただいています。



PMIJ通信



グローバルトレンド

マンガの活用

PMBOK®ガイドなどのPMI標準の普及を目的に、マンガを活用したWebページ(LP)『マンガで学ぶプロジェクトマネジメント』を設け、メール配信で読者を誘導しています。マンガによる短時間動画も加え、若い世代にも訴求できる取組みを開拓しています。2024年度は第7話(リーダシップ編)から第11話(PMI標準全体編)まで計5話をリリースしました。



Facebook ページ

ソーシャルメディアによる情報発信源としてFacebookページを活用しています。

日本支部Webサイトに掲示された「イベント」や「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI本部から発信される情報などもご紹介しています。

2024年も利用者の皆さまの「いいね!」で、プロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。



YouTube

ソーシャルメディアによる情報発信源としてYouTubeも活用しています。

「短時間でプロジェクトマネジメントを学べる映像教材」、「女

性コミュニティのインタビュー動画」、「マンガで学ぶプロジェクトマネジメント」、「SDGs スタートアップ研究分科会活動」などの動画を公開しています。「とてもわかり易い」と好評いただいていますので、皆さんもチャンネル登録をお願いします。



販売図書

出版書籍

日本支部のオンラインショップでは、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイドPMBOK®ガイド第7版』をはじめとするPMI®標準の日本語訳や、PMP®受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。

URL: <https://www.pmi-japan.shop>

プロセス群：実務ガイド電子書籍 (Kindle) 版

PMBOK®ガイドの第7版(原理・原則)と第6版(プロセスベース)のギャップを埋める実務ガイド



予測型アプローチでのプロジェクトマネジメントに必要な実践的な情報 5つのプロセス群と49のプロセス、関連する「インプット」、「ツールと技法」、「アウトプット」を網羅

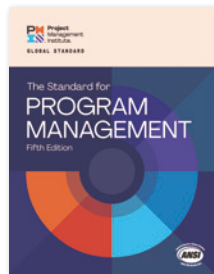
著者：PMI
発行：PMI日本支部
形式：リフロー型
発売日：2024年1月16日

本書は、PMIが2022年12月に発行した Process Groups: A Practice Guide の日本語翻訳版で、PMI本部の許諾を得てPMI日本支部が監訳・制作したものです。本書は『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第7版+プロジェクトマネジメント標準』の価値ある姉妹書として、予測型アプローチとウォーターフォール・アプローチのための実践的なガイダンスを提供します。

以下のサイトからお求めできます。▶<https://www.amazon.co.jp/dp/B0CS6J4FKP>

現在準備中の PMI 標準本

プログラムマネジメント標準』第5版

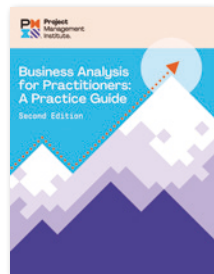


著者：PMI
発行：PMI日本支部
発行時期：2025年(予定)

プログラムマネジメントの標準-第5版は、プログラムマネジメントの実践を強化しようとする個人と組織のための最も信頼できるガイドです。この版では、プログラムマネジメントにおける行動の指針となる8つの原則を明らかにし、原則主導の標準としての出版物を確立しています。

本書では、新しいプログラムマネジメントのパフォーマンス領域である「コラボレーション」が導入されています。規格を読み、理解し、利用するための合理的なアプローチのために再編成された内容も、同じく組み込まれています。

実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド』第2版



著者：PMI
発行：PMI日本支部
発行時期：2025年(予定)

実務家のためのビジネスアナリシス A Practice Guide - Second Editionは、ビジネスアナリシスを仕事や日常生活の中で身近なものにし、ビジネスアナリシスのスキルを問題解決に活用できるようにします。ビジネスアナリシスを成功に導くための背景、環境、実践方法を学ぶことができます。

調査や発見を成功させるためのビジネスアナリシスのマインドセット、そして成果を達成するためのツールとして、このガイドブックをご活用ください。このマインドセットを取り入れることで、ビジネスアナリシスの中核となる質問、学習、解決策の選択肢に対する寛容さを身につけることができます。

貸借対照表

令和6年12月31日現在

(単位： 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	225,544,488	【流動負債】	42,219,860
現 金 及 び 預 金	205,431,180	買 掛 金	4,469,384
売 掛 金	3,504,261	未 払 費 用	5,568,176
商 品	1,254,583	未 払 法 人 税 等	7,651,400
貯 蔵 品	122,100	未 払 消 費 税 等	3,024,500
未 収 入 金	15,203,244	前 受 金	19,578,048
前 払 金	29,120	預 り 金	1,928,352
【固定資産】	5,451,052	負 債 の 部 合 計	42,219,860
【有形固定資産】	1,135,437	純資産の部	
建 物 附 属 設 備	1,135,426	【株主資本】	188,775,680
工 具 器 具 備 品	11	基 金	55,000,000
【無形固定資産】	1,614,175	利 益 剰 余 金	133,775,680
電 話 加 入 権	37,600	そ の 他 利 益 剰 余 金	133,775,680
ソ フ ト ウ ェ ア	1,576,575	繰 越 利 益 剰 余 金	133,775,680
【投資その他の資産】	2,701,440		
敷 金	2,701,440	純 資 産 の 部 合 計	188,775,680
資 産 の 部 合 計	230,995,540	負 債 及 び 純 資 産 合 計	230,995,540

損益計算書

自 令和 6年 1月 1日
至 令和 6年12月31日

(単位： 円)

科 目	金 額
【売上高】	
売 上 高	120,159,577
会 費 収 入 高	49,311,331
売 上 高 合 計	169,470,908
【売上原価】	
期 首 商 品 棚 卸 高	1,799,036
書 籍 関 連 原 価	13,928,515
セ ミ ナ ー 関 連 原 価	10,676,408
そ の 他 原 価	7,283,484
合 計	33,687,443
期 末 商 品 棚 卸 高	1,254,583
売 上 原 価	
売 上 総 利 益	
【販売費及び一般管理費】	
販売費及び一般管理費合計	103,728,177
営 業 利 益	33,309,871
【営業外収益】	
受 取 利 息	15,681
雑 収 入	646,894
営 業 外 収 益 合 計	662,575
【営業外費用】	
雑 損 失	577,824
営 業 外 費 用 合 計	577,824
経 常 利 益	33,394,622
【特別損失】	
寄 付 金 (特 別 損 失)	1,853,300
特 別 損 失 合 計	1,853,300
税 引 前 当 期 純 利 益	31,541,322
法人税・住民税及び事業税	11,271,599
当 期 純 利 益	20,269,723

2024年12月31日現在

名 前 / 役職	所 属	名 前 / 役職	所 属
端山 毅 会長	株式会社 NTT データグループ 技術革新統括本部 テクノロジストラテ ジスト、博士 (工学)、PMP	水井 悦子 理事	エンパワー・コンサルティング株式会社 代表取締役社長
麻生 重樹 副会長	日本電気株式会社 プロジェクトマネジメント統括部 プロフェッショナル PMO	山本 智子 理事	川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療秘書学科 学科長・特任教授
奥澤 薫 副会長	KOLABO 代表	除村 健俊 理事	サイバー大学 IT 総合学部 教授
中村 亜子 副会長	株式会社パーソル総合研究所 シニア・コンサルタント	片江 有利 監事	株式会社システムコストマネジメント 顧問
藤井 新吾 副会長	モバイルコンピューティング推進コンソー シアム 人材育成委員会 講師ワーキング長	三嶋 良武 監事	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ 株式会社 品質保証部 主席専門研究員
森田 公至 副会長	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社 クライアント・デリバリー統括本部長	山中 良文 監事	自営業者
稲葉 涼太 理事	TIS 株式会社 エキスパート	池田 修一 アドバイザー	株式会社ポジティブ・ラーニング 代表取締役社長
井上 雅裕 理事	慶応義塾大学大学院システムデザイン・ マネジメント研究科特任教授 大正大学 招聘教授 芝浦工業大学 名誉教授	伊藤 衡 アドバイザー	京都工芸繊維大学大学院 立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
浦田 有佳里 理事	国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 ナショナルサイバートレーニングセンター サイバートレーニング研究室	井奈波 誠 アドバイザー	JBCC 株式会社 SI 企画・標準化 協業推進 サービス推進 発注管理 G
小川原 陽子 理事	日本アイ・ビー・エム株式会社 公共・通信メディア公益サービス事業部 アソシエイト パートナー	岩岡 泰夫 アドバイザー	株式会社国際開発センター 研究顧問
奥田 智洋 理事	株式会社アイ・ティ・イノベーション 執行 役員 兼 西日本コンサルティンググループ プロデューサー	神庭 弘年 アドバイザー	神庭 PM 研究所 所長
鬼束 孝則 理事	Ridgelinez 株式会社 テクノロジーグループ 執行役員パートナー	木下 雅裕 アドバイザー	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 代表取締役専務執行役員
金子 啓一郎 理事	プロジェクト・ピープル・パフォーマンス 研究所 代表	鈴木 安而 アドバイザー	PM アソシエイツ株式会社 代表取締役
斉藤 学 理事	スカイライトコンサルティング株式会社 ソーシャルイノベーションラボ シニアマネージャー	高橋 正憲 アドバイザー	PM プロ有限公司 代表取締役
坂上 慶子 理事	株式会社 日立アカデミー プロジェクトマネジメント統括マネジャー	当麻 哲哉 アドバイザー	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネ ジメント研究科 教授 慶應フォトニクス・リサーチ・インスティテュート 副所長
杉原 秀保 理事	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 主席コンサルタント	中嶋 秀隆 アドバイザー	プラネット株式会社 コンサルタント
千葉 昌幸 理事	株式会社三菱総合研究所 公共 DX 本部特命リーダー	福本 伸昭 アドバイザー	株式会社ビーエスシー 東日本事業本部 執行役員
羽佐間 一潮 理事	特定非営利活動法人 日本プロジェクト マネジメント協会 (PMAJ) かんぽシステムソリューションズ株式会社 総括補佐役 Tide ONE 株式会社 代表取締役社長社長	米澤 徹也 アドバイザー	あすか技術士事務所 代表
藤原 慎 理事	株式会社NTT データユニバーシティ 代表取締役社長	渡辺 哲也 アドバイザー	株式会社日立アカデミー L&D 第一部 主管インストラクター
松本 弘明 理事	株式会社ローソン銀行 IT 戦略統括補佐 基盤システム戦略部長	渡辺 善子 アドバイザー	JBCC ホールディングス株式会社 社外取締役 国立大学法人 東京海洋大学 理事 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 理事

法人スポンサー（120社）

（五十音順）

アイアンドエルソフトウェア株式会社	大日本印刷株式会社
I&J デジタルイノベーション株式会社	TIS 株式会社
アイエックス・ナレッジ株式会社	DXC テクノロジージャパン株式会社
アイシンク株式会社	テクノシステム株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション	テルモ株式会社
株式会社ITブレナーズジャパン・アジアパシフィック	東芝インフォメーションシステムズ株式会社
株式会社アイテック	株式会社東レシステムセンター
株式会社アイ・ラーニング	TOPPAN エッジ株式会社
AKKODiS コンサルティング株式会社	株式会社トヨタシステムズ
Asana Japan 株式会社	株式会社 TRADECREATE
アドソル日進株式会社	日揮グローバル株式会社
アベールソリューションズ株式会社	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
イノベーションフレームワークテクノロジー・プラニスウェア株式会社	日鉄ソリューションズ株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	日本電気株式会社
株式会社インテージテクノスフィア	日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社インテック	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
株式会社エクサ	株式会社日本ウィルテックソリューション
エス・エー・エス株式会社	日本自動化開発株式会社
株式会社 SCC	日本情報通信株式会社
SCSK 株式会社	日本電子計算株式会社
エトリア株式会社	日本ビジネスシステムズ株式会社
SBテクノロジー株式会社	日本ヒューレット・パッカード合同会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS	日本プロセス株式会社
NEC ソリューションイノベータ株式会社	株式会社ネクストスケープ
株式会社 NSD	ネットワンシステムズ株式会社
NCS&A 株式会社	株式会社野村総合研究所
NDI ソリューションズ株式会社	株式会社パーソル総合研究所
株式会社NTTデータ アイ	株式会社パスコ
株式会社NTTデータグループ	株式会社ビーエスシー
株式会社NTTデータ・ニューソン	PM アソシエイツ株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア	株式会社 PE-BANK
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ	ビジネスエンジニアリング株式会社
MI デジタルサービス株式会社	ビジネステクノクラフツ株式会社
MS&AD システムズ株式会社	株式会社日立アカデミー
株式会社エル・ティー・エス	株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社オーション・コンサルティング	株式会社日立システムズ
株式会社大塚商会	株式会社日立社会情報サービス
キーウェアソリューションズ株式会社	株式会社日立製作所
キヤノン株式会社	株式会社日立ソリューションズ
キヤノンITソリューションズ株式会社	BIPROGY 株式会社
キンドリルジャパン株式会社	株式会社ヒューマンテクノシステム
キンドリルジャパン・テクノロジーサービス 株式会社	富士電機株式会社
クオリカ株式会社	フラッグス株式会社
株式会社クレスコ	ブラネット株式会社
KDDI 株式会社	株式会社マネジメントソリューションズ
株式会社神戸製鋼所	三菱総研 DCS 株式会社
コベルコシステム株式会社	株式会社三菱総合研究所
サイフォーマ株式会社	三菱電機株式会社
JFE システムズ株式会社	三菱電機エンジニアリング株式会社
株式会社 JQ	三菱電機ソフトウェア株式会社
株式会社 JSOL	明治安田システム・テクノロジー 株式会社
JBCC 株式会社	ベルノックス株式会社
株式会社システムインテグレータ	ラーニング・ツリヤー・インターナショナル株式会社
株式会社システム情報	株式会社ラック
システムスクエア株式会社	株式会社リクルート
情報技術開発株式会社	株式会社リコー
Smartsheet Japan 株式会社	リコージャパン株式会社
住友電工情報システム株式会社	ロジスティードソリューションズ株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社	株式会社ワコム
SOMPO システムズ株式会社	株式会社ワールドフェイマス

2024年12月31日現在

アカデミック・スポンサー（56組織）

（五十音順）

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
国立大学法人愛媛大学デジタル情報人材育成機構
公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
鹿児島大学 産学・地域共創センター
学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
神戸女子大学 家政学部家政学科
公立大学法人 公立はこだて未来大学
サイバー大学
札幌学院大学
サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
第一工科大学 東京上野キャンパス
大正大学
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中央大学 国際情報学部
中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
中京大学 情報センター
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
名古屋工業大学 社会工学科 経営システム分野 濱口研究室
日本経済大学 大学院経営学研究科
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学 経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
北海道情報大学
北海道大学大学院 情報科学研究科
独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
山口大学 工学部知能情報工学科
山口大学大学院 技術経営研究科
国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー（4組織）

滋賀県大津市 市民部
広島県 総務局 県庁情報システム担当
広島県福山市役所
三重県桑名市